

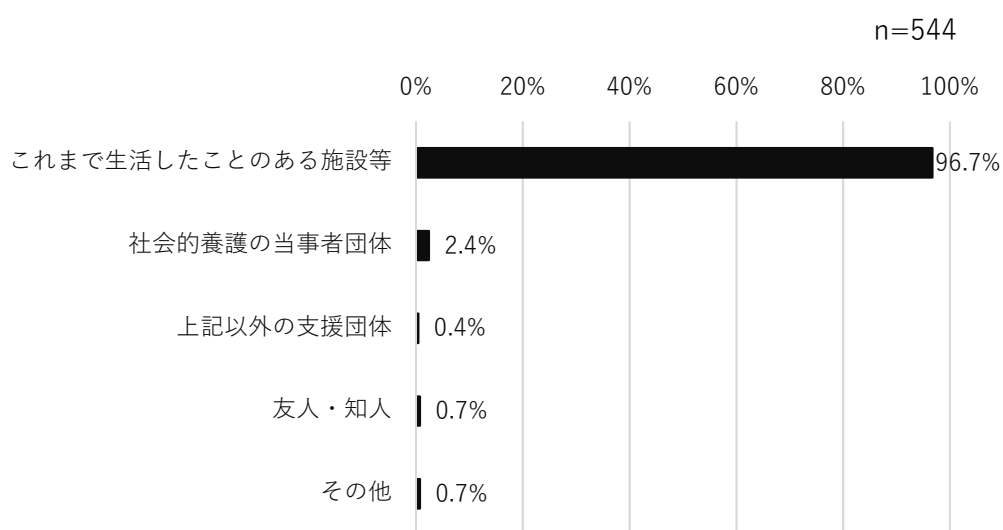
## 第2章 調査結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) アンケートを紹介された相手

「これまで生活したことのある施設等」の割合が最も高く 96.7%となっている。次いで、「社会的養護の当事者団体 (2.4%)」、「友人・知人 (0.7%)」、「その他 (0.7%)」となっている。

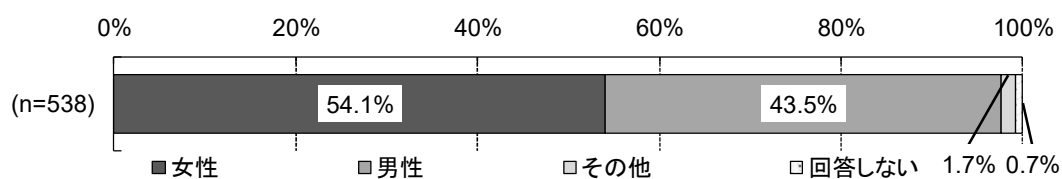
図表 2 アンケートを紹介された相手 (複数回答)



#### (2) 性別

「女性」が 54.1%、「男性」が 43.5%、「その他」が 1.7%となっている。

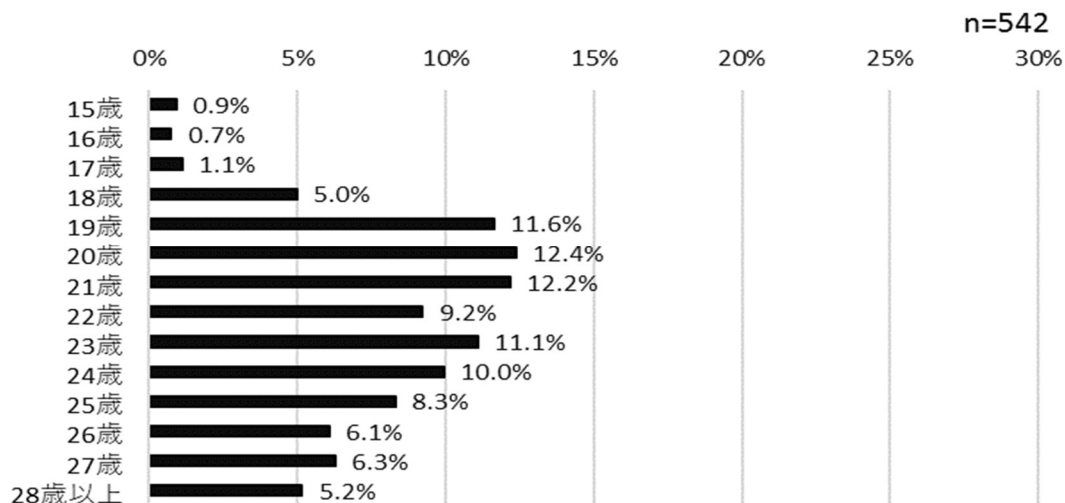
図表 3 性別



### (3) 年齢

「20 歳」の割合が最も高く 12.4%となっている。次いで、「21 歳 (12.2%)」、「19 歳 (11.6%)」となっている。

図表 4 年齢 (令和2年11月1日時点)



施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「20 歳」が 13.4%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「22 歳」が 16.2%と最も割合が高くなっている。「里親」では「21 歳」が 27.3%と最も割合が高くなっている。

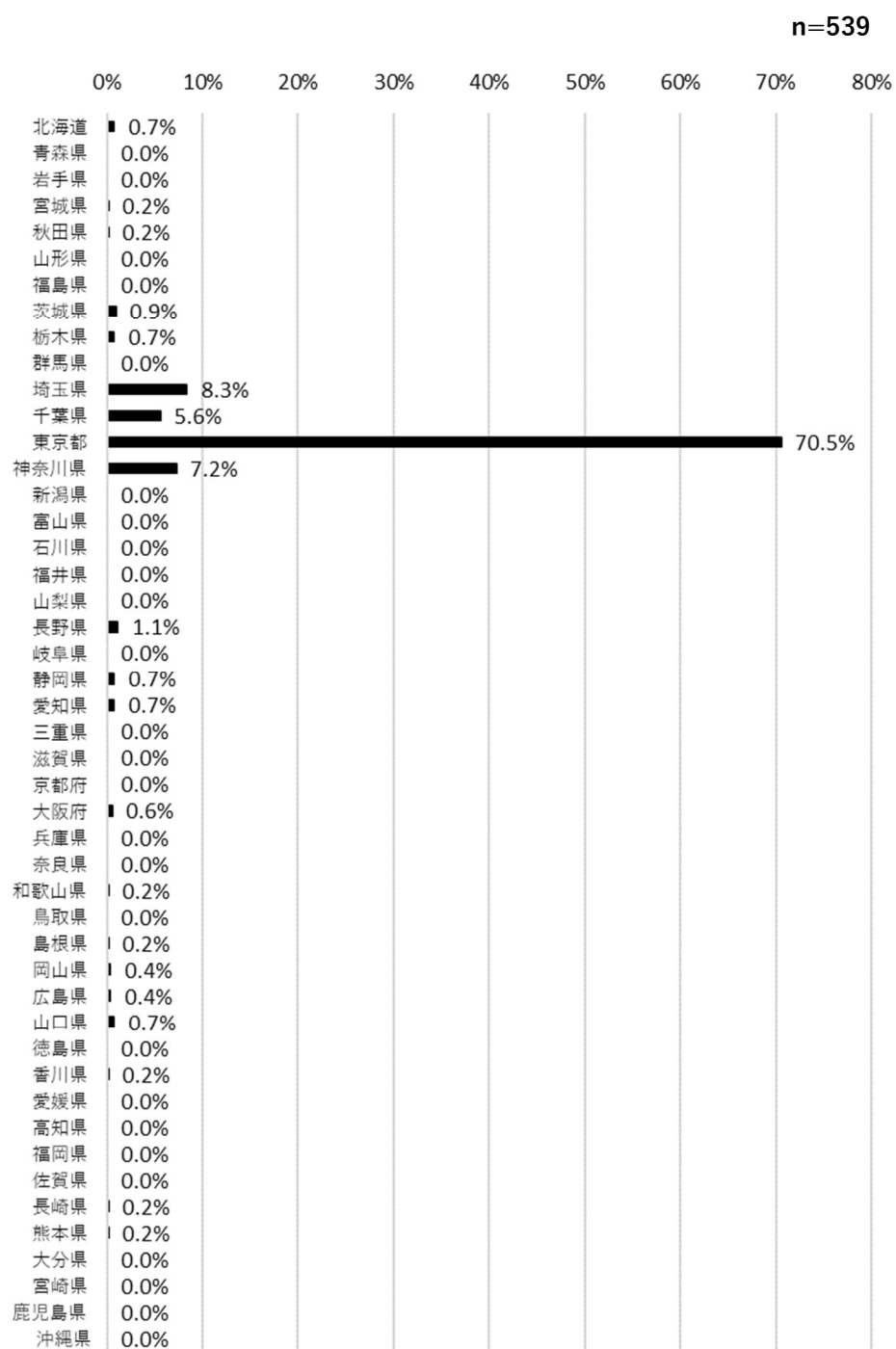
図表 5 年齢 (令和2年11月1日時点) (施設の種別別)

	Total	児童養護施設	自立援助ホーム	里親
	(n=542)	(n=426)	(n=74)	(n=22)
15歳	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%
16歳	0.7%	0.5%	1.4%	0.0%
17歳	1.1%	1.4%	0.0%	0.0%
18歳	5.0%	5.6%	1.4%	4.5%
19歳	11.6%	12.9%	5.4%	13.6%
20歳	12.4%	13.4%	6.8%	18.2%
21歳	12.2%	11.0%	14.9%	27.3%
22歳	9.2%	8.2%	16.2%	9.1%
23歳	11.1%	10.8%	10.8%	4.5%
24歳	10.0%	9.9%	12.2%	9.1%
25歳	8.3%	7.3%	14.9%	9.1%
26歳	6.1%	6.6%	4.1%	4.5%
27歳	6.3%	7.0%	2.7%	0.0%
28歳以上	5.2%	4.9%	9.5%	0.0%

#### (4) 現在住んでいる都道府県

「東京都」の割合が最も高く 70.5%となっている。次いで、「埼玉県 (8.3%)」、「神奈川県 (7.2%)」となっている。

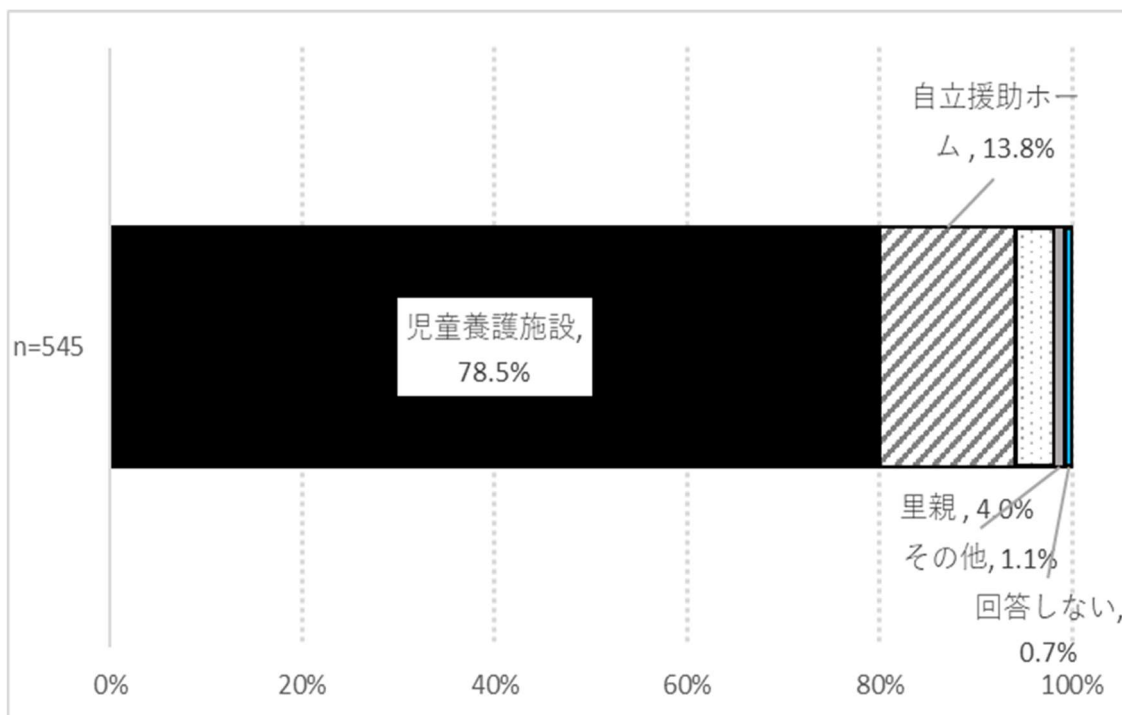
図表 6 現在住んでいる都道府県 (単数回答)



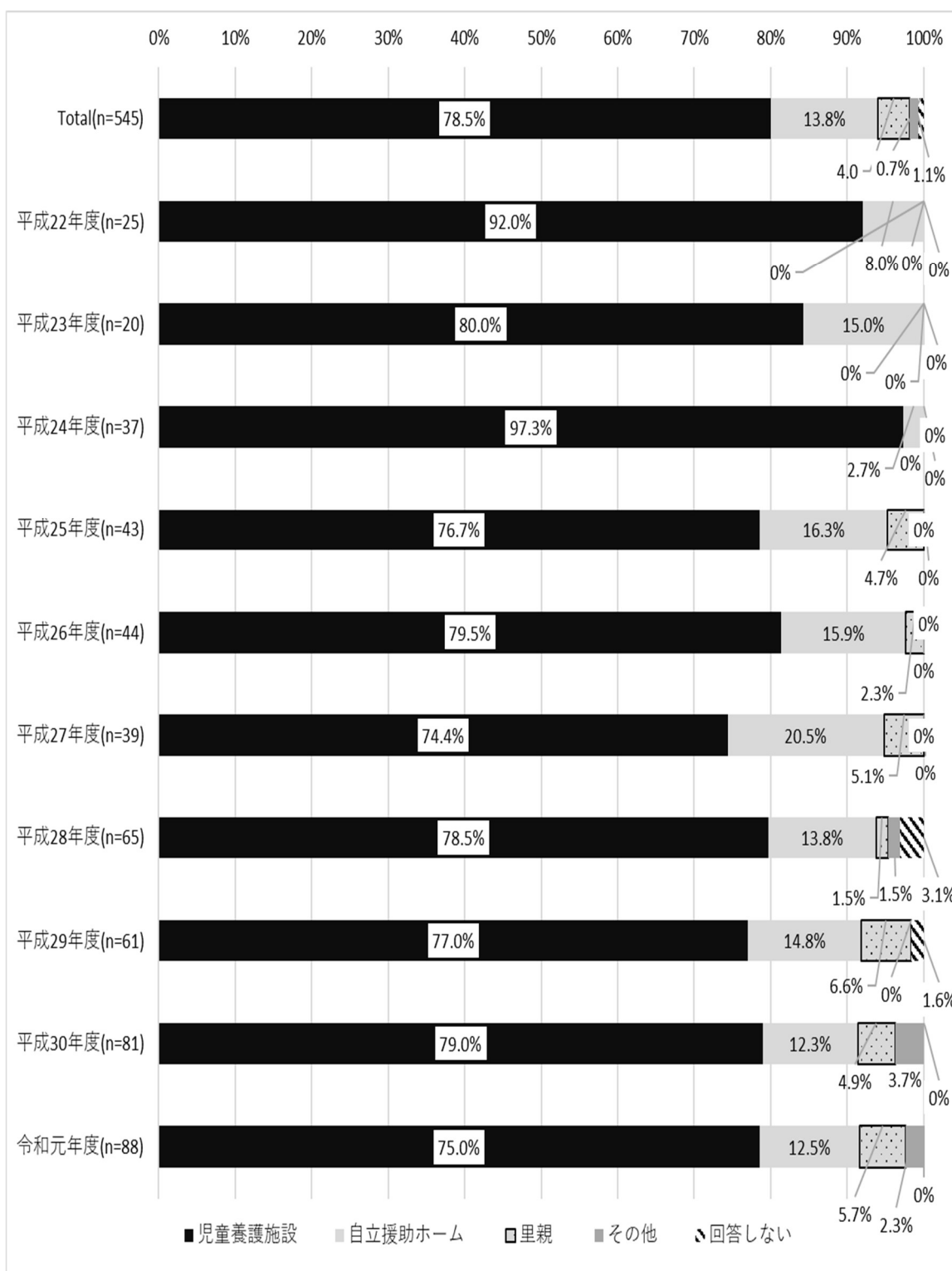
### (5) 最後に生活していた施設等の種類

「児童養護施設」の割合が最も高く 78.5%となっている。次いで、「自立援助ホーム (13.8%)」、「里親 (4.0%)」となっている。

図表 7 施設等の種類



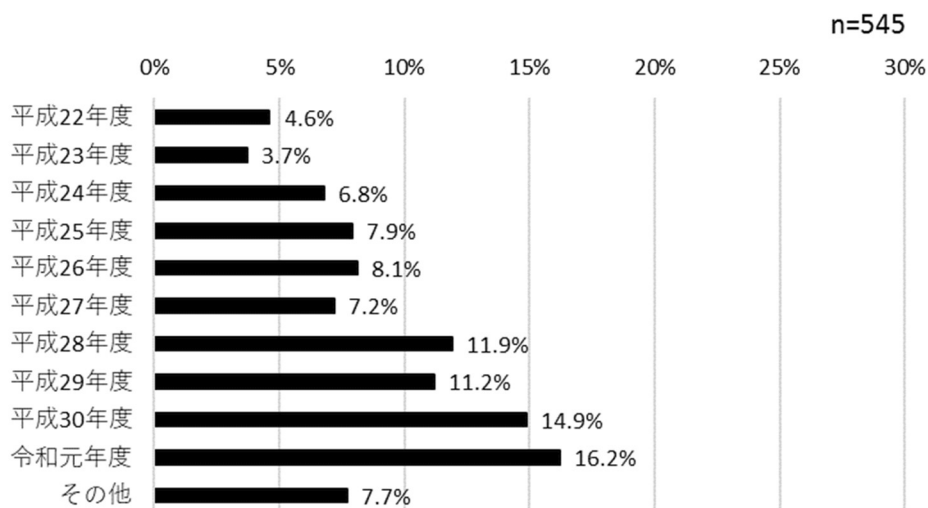
図表 8 施設等の種類（退所年度別）



## (6) 退所年度

「令和元年度」の割合が最も高く 16.2%となっている。次いで、「平成30年度 (14.9%)」、「平成28年度 (11.9%)」となっている。

図表 9 退所年度



(注) 退所年度について、「平成21年度以前」「令和2年度以降」「回答しない」のいずれかを回答した人は、「その他」として整理した。

施設の種類の別みると、いずれも「令和元年度」が最も割合が高く「児童養護施設」が 15.4%、「自立援助ホーム」が 14.7%、「里親」が 22.7%となっている。

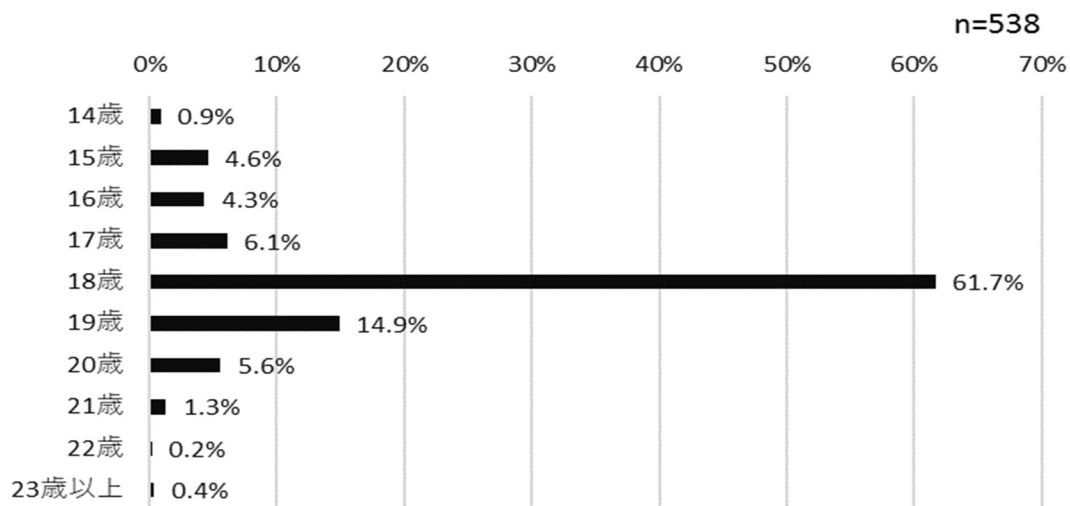
図表 10 退所年度（施設等の種類別）

	Total	児童養護施設	自立援助ホーム	里親
	(n=545)	(n=428)	(n=75)	(n=22)
平成22年度	4.6%	5.4%	2.7%	0.0%
平成23年度	3.7%	3.7%	4.0%	0.0%
平成24年度	6.8%	8.4%	1.3%	0.0%
平成25年度	7.9%	7.7%	9.3%	9.1%
平成26年度	8.1%	8.2%	9.3%	4.5%
平成27年度	7.2%	6.8%	10.7%	9.1%
平成28年度	11.9%	11.9%	12.0%	4.5%
平成29年度	11.2%	11.0%	12.0%	18.2%
平成30年度	14.9%	15.0%	13.3%	18.2%
令和元年度	16.1%	15.4%	14.7%	22.7%
その他	7.7%	6.5%	10.7%	13.6%

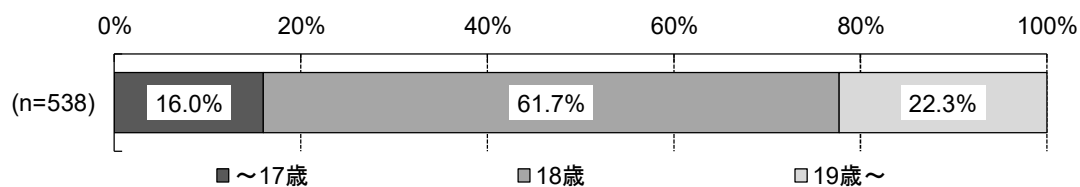
### (7) 退所時点の年齢

「18歳」の割合が最も高く61.7%となっている。次いで、「19歳（14.9%）」、「17歳（6.1%）」となっている。

図表 11 退所時点の年齢



図表 12 退所時点の年齢の構成



施設の種類別にみると、「児童養護施設」では「18歳」が70.1%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「19歳」が37.0%と最も割合が高くなっている。「里親」では「18歳」が72.7%と最も割合が高くなっている。

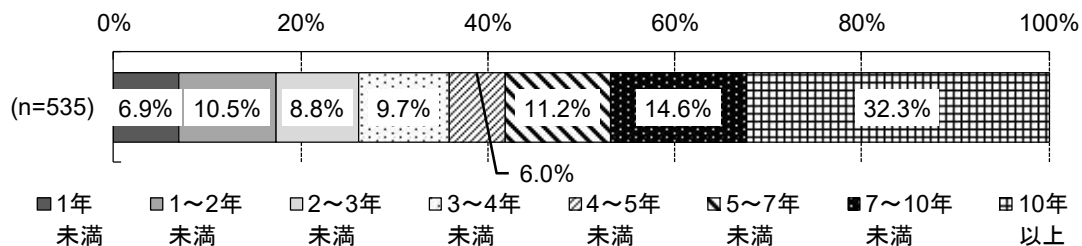
図表 13 退所時点の年齢（施設等の種類別）

	Total	児童養護施設	自立援助ホーム	里親
	(n=538)	(n=425)	(n=73)	(n=22)
14歳	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%
15歳	4.6%	5.4%	0.0%	0.0%
16歳	4.3%	3.8%	8.2%	0.0%
17歳	6.1%	6.4%	6.8%	0.0%
18歳	61.7%	70.1%	17.8%	72.7%
19歳	14.9%	11.5%	37.0%	9.1%
20歳	5.6%	1.6%	21.9%	18.2%
21歳	1.3%	0.0%	8.2%	0.0%
22歳	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
23歳以上	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%

(8) 入所期間

「10年以上」の割合が最も高く 32.3%となっている。次いで、「7～10年未満(14.6%)」、「5～7年未満(11.2%)」となっている。

図表 14 入所期間



施設の種類別にみると、「児童養護施設」では「10年以上」が 38.3%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「1年未満」が 42.5%と最も割合が高くなっている。「里親」では「10年以上」が 36.4%と最も割合が高くなっている。

図表 15 入所期間（施設等の種類別）

	Total	児童養護施設	自立援助ホーム	里親
	(n=535)	(n=420)	(n=73)	(n=22)
1年未満	6.9%	1.2%	42.5%	0.0%
1～2年未満	10.5%	5.7%	37.0%	13.6%
2～3年未満	8.8%	6.2%	15.1%	13.6%
3～4年未満	9.7%	10.0%	2.7%	18.2%
4～5年未満	6.0%	7.4%	0.0%	4.5%
5～7年未満	11.2%	13.3%	2.7%	9.1%
7～10年未満	14.6%	17.9%	0.0%	4.5%
10年以上	32.3%	38.3%	0.0%	36.4%

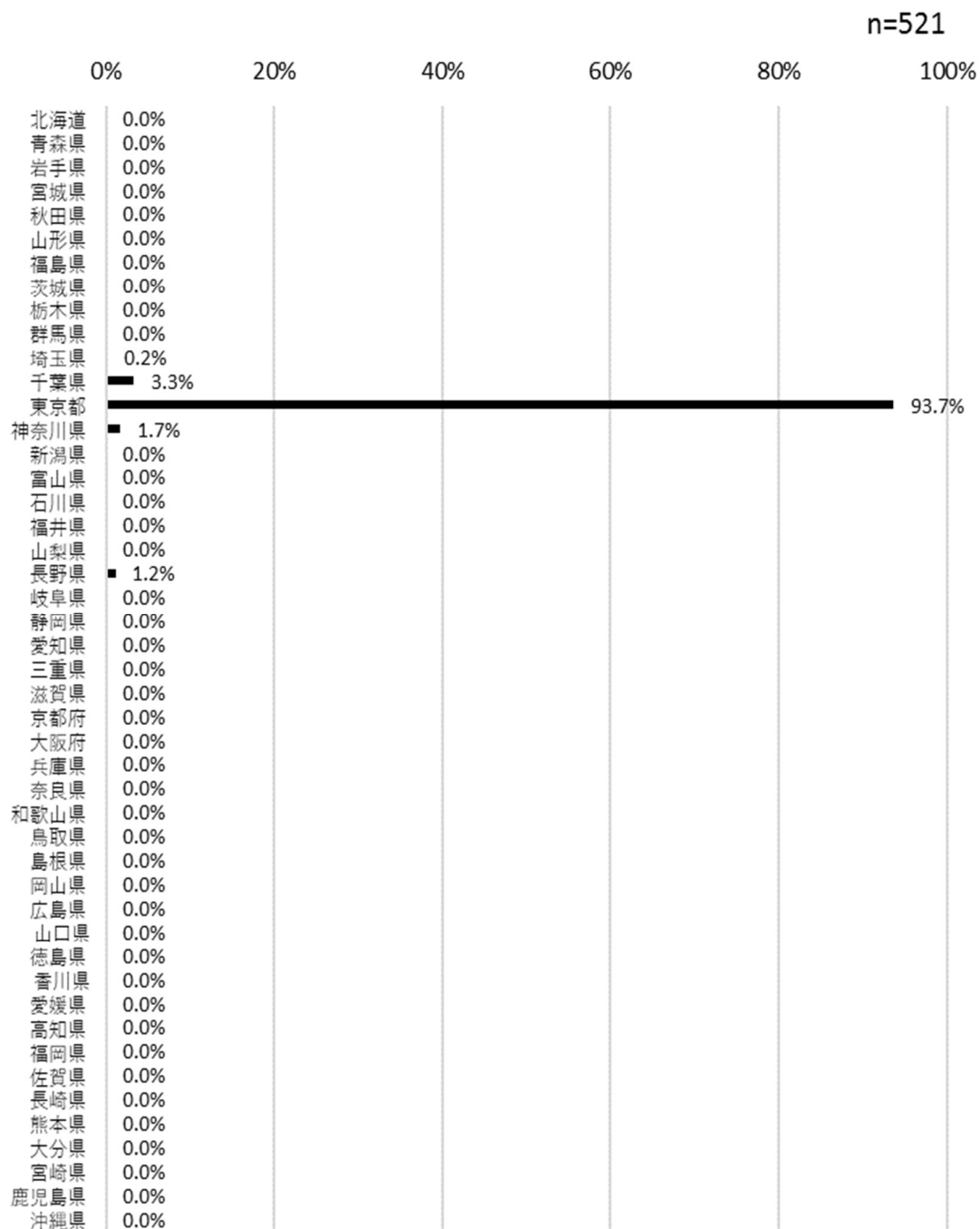


(9) 最後に生活していた施設等がある都道府県

① 都道府県

「東京都」の割合が最も高く 93.7%となっている。次いで、「千葉県 (3.3%)」、「神奈川県 (1.7%)」となっている。

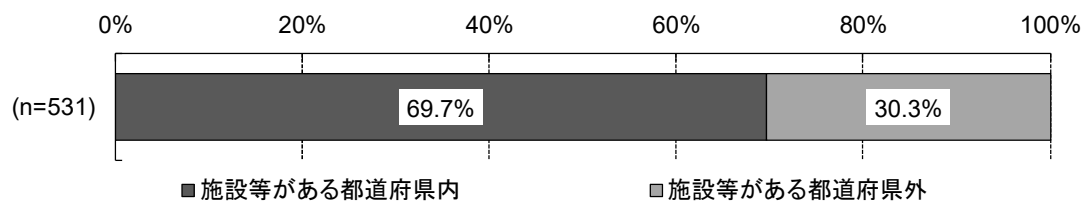
図表 16 都道府県



## ② 施設等がある都道府県と現在住んでいる都道府県

「施設等がある都道府県内」の割合が 69.7%、「施設等がある都道府県外」が 30.3%となっている。

図表 17 施設等がある都道府県と現在住んでいる都道府県

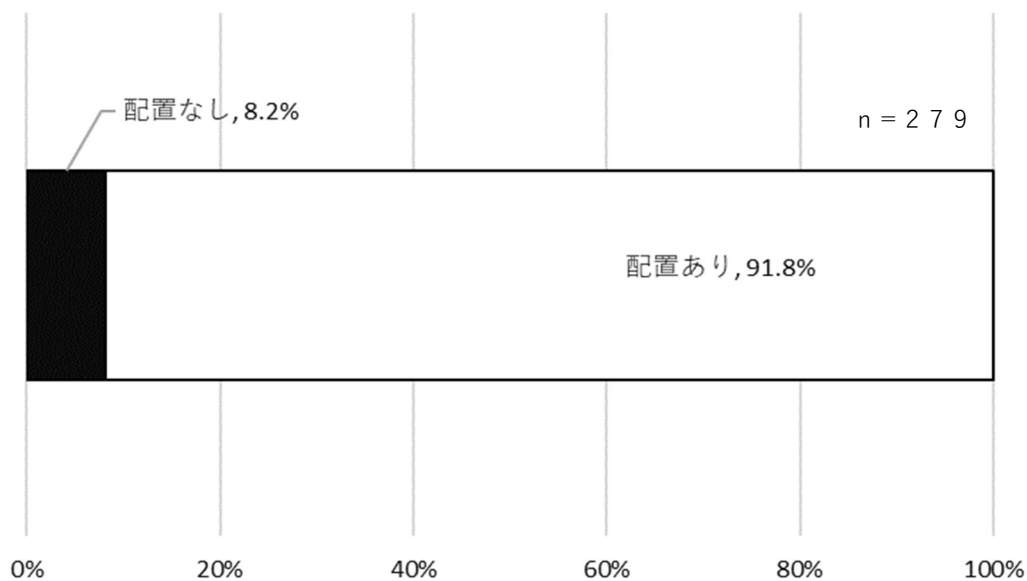


(注) 最後に生活していた施設等の都道府県名と現在住んでいる都道府県について、一致している場合に「施設等がある都道府県内」、一致しない場合に「施設等がある都道府県外」と整理した。

## (10) 自立支援コーディネーターの配置状況

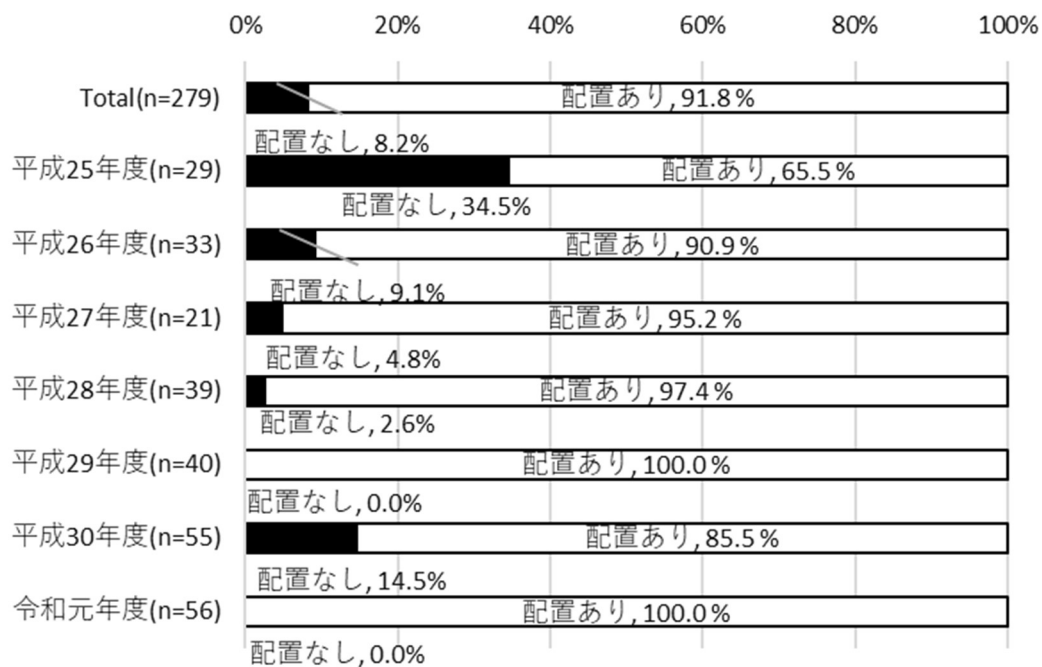
「配置あり」が 91.8%、「配置なし」が 8.2%となっている。

図表 18 自立支援コーディネーターの配置状況  
(民間児童養護施設・平成 25 年度以降退所者のみ)



(注) 施設等の名前（自由記述）と退所年度の回答から、配置状況を整理した。

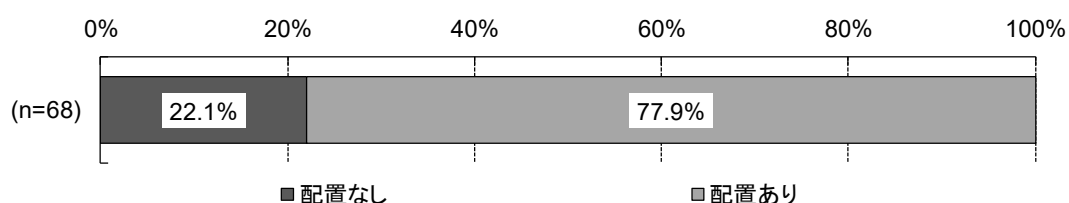
図表 19 自立支援コーディネーターの配置状況（退所年度別）  
 （民間児童養護施設・平成 25 年度以降退所者のみ）



### (11) ジョブ・トレーナーの配置状況

「配置あり」が77.9%、「配置なし」が22.1%となっている。

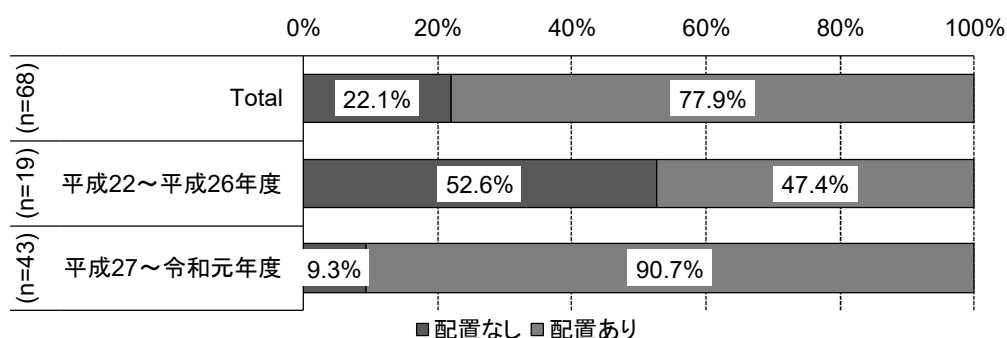
図表 20 ジョブ・トレーナーの配置状況（自立援助ホームのみ）



(注) 施設等の名前（自由記述）と退所年度の回答から、配置状況を整理した。

退所年度別にみると、「平成22～平成26年度」では「配置なし」が52.6%と5割を超えていたが「平成27～令和元年度」では「配置あり」が9割以上（90.7%）となっている。

図表 21 ジョブ・トレーナーの配置状況（退所年度別）（自立援助ホームのみ）



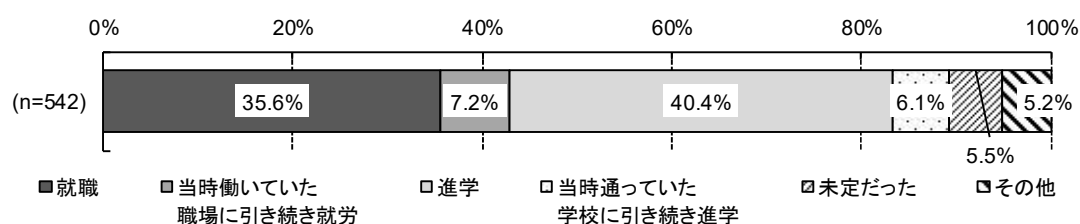
## 2. 就労・就学の状況

### (1) 退所直後の就労・就学の状況

#### ① 退所直後の主な進路

「進学」の割合が最も高く 40.4%となっている。次いで、「就職 (35.6%)」、「当時働いていた職場に引き続き就労 (7.2%)」となっている。

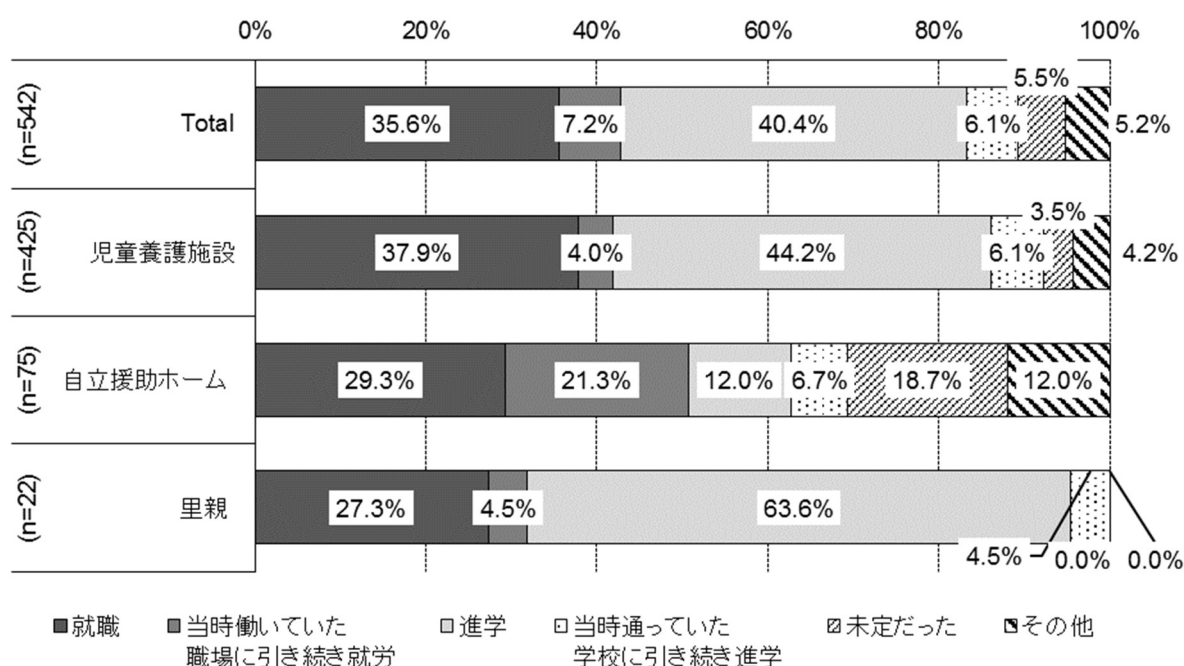
図表 22 退所直後の主な進路



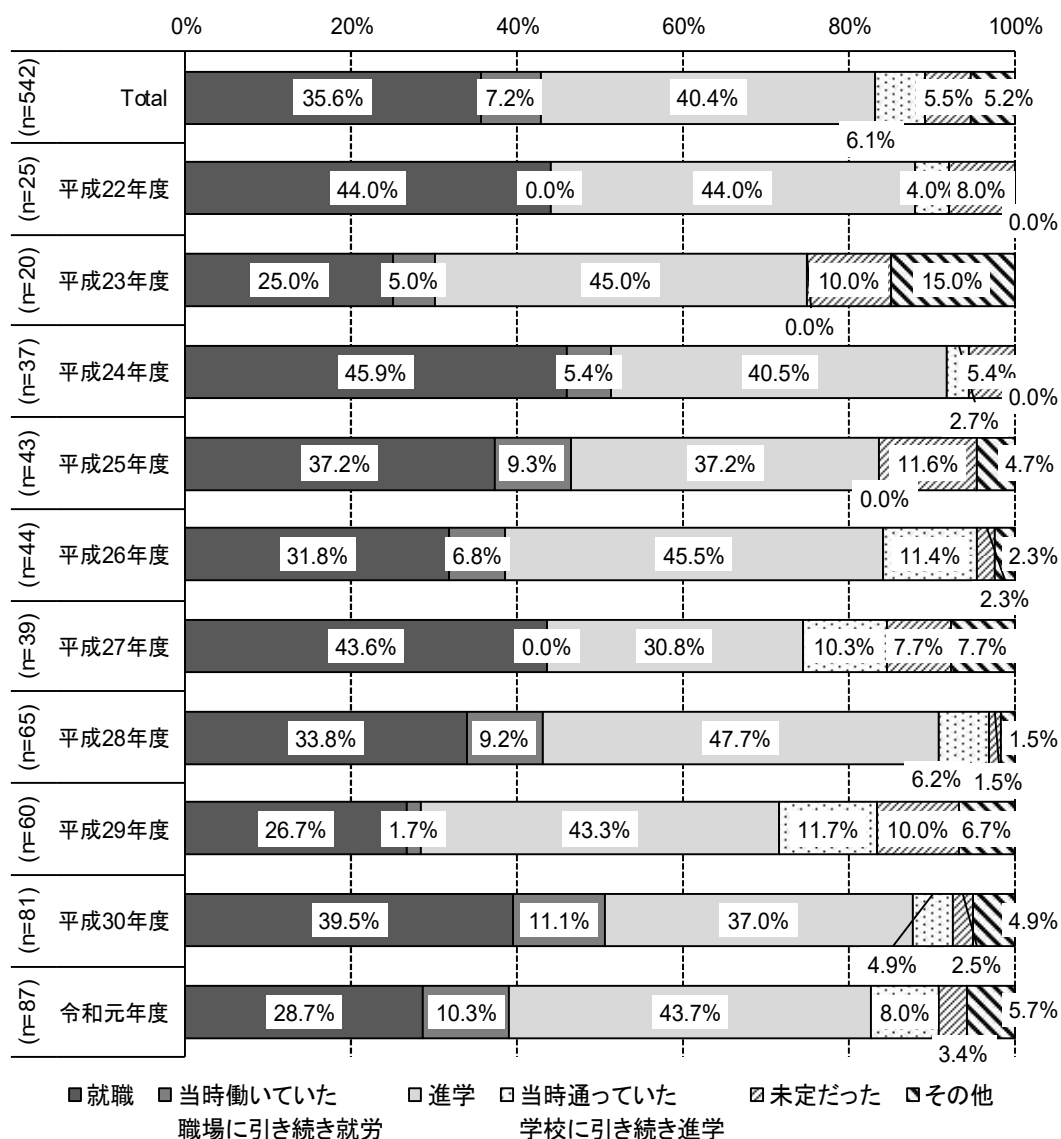
(注) 「その他」として、「結婚、出産」、「職業訓練校」、「親元に戻った」、「生活保護」などが挙げられた。

施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「進学」が 44.2%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「就職」が 29.3%と最も割合が高くなっている。「里親」では「進学」が 63.6%と最も割合が高くなっている。

図表 23 退所直後の主な進路（施設等の種別別）

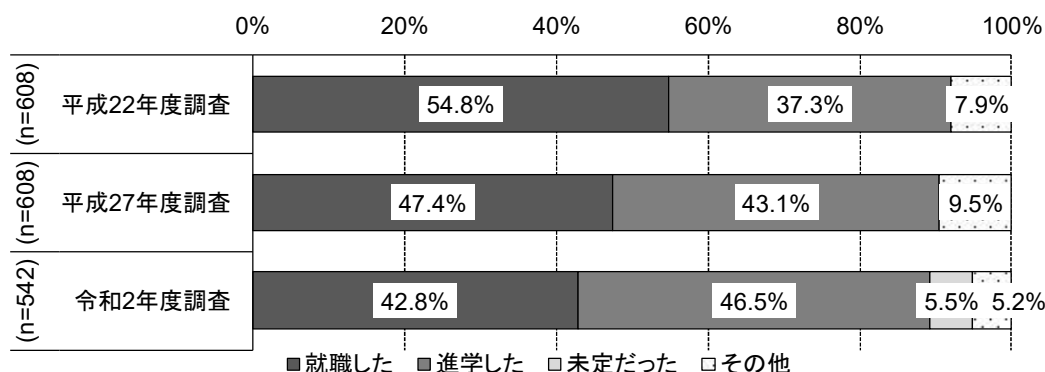


図表 24 退所直後の主な進路（退所年度別）



前回調査と比較すると、「進学した」の割合が43.1%から46.5%と3.4ポイント増加している。

図表 25 退所直後の主な進路（前回調査との比較）



(注) 前回調査との比較のため、今回調査の結果について、「進学」または「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人を「進学した」、「就職」または「当時働いていた職場に引き続き就労」を回答した人を「就職した」とした。また、今回調査では「未定だった」の選択肢を新たに追加した。

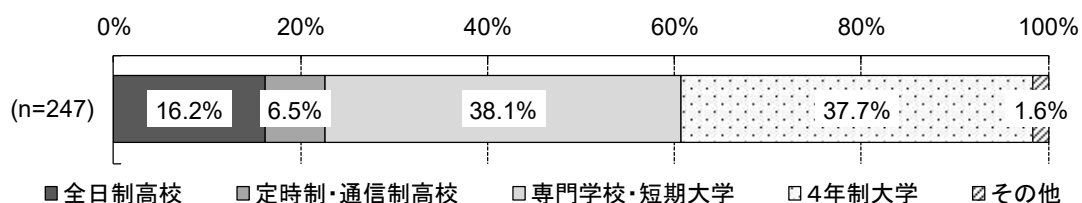
## ② 退所直後の就学状況

以降の設問は、退所直後の主な進路について、「進学」もしくは「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人にたずねた。

### 1) 退所直後に進学した学校の種類

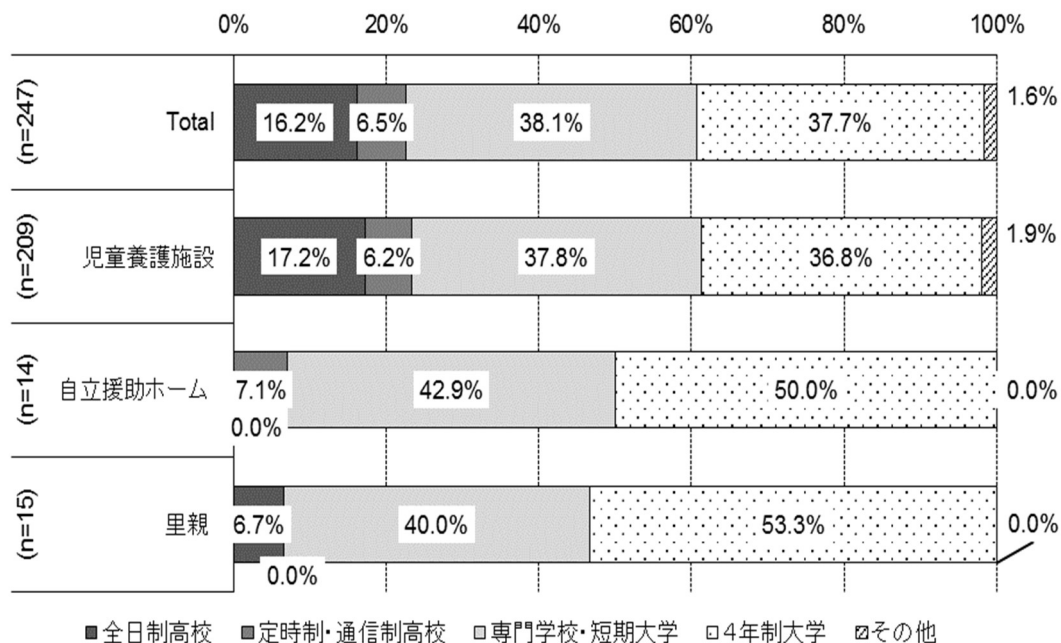
「専門学校・短期大学」の割合が最も高く38.1%となっている。次いで、「4年制大学(37.7%)」、「全日制高校(16.2%)」となっている。

図表 26 退所直後に進学した学校の種類

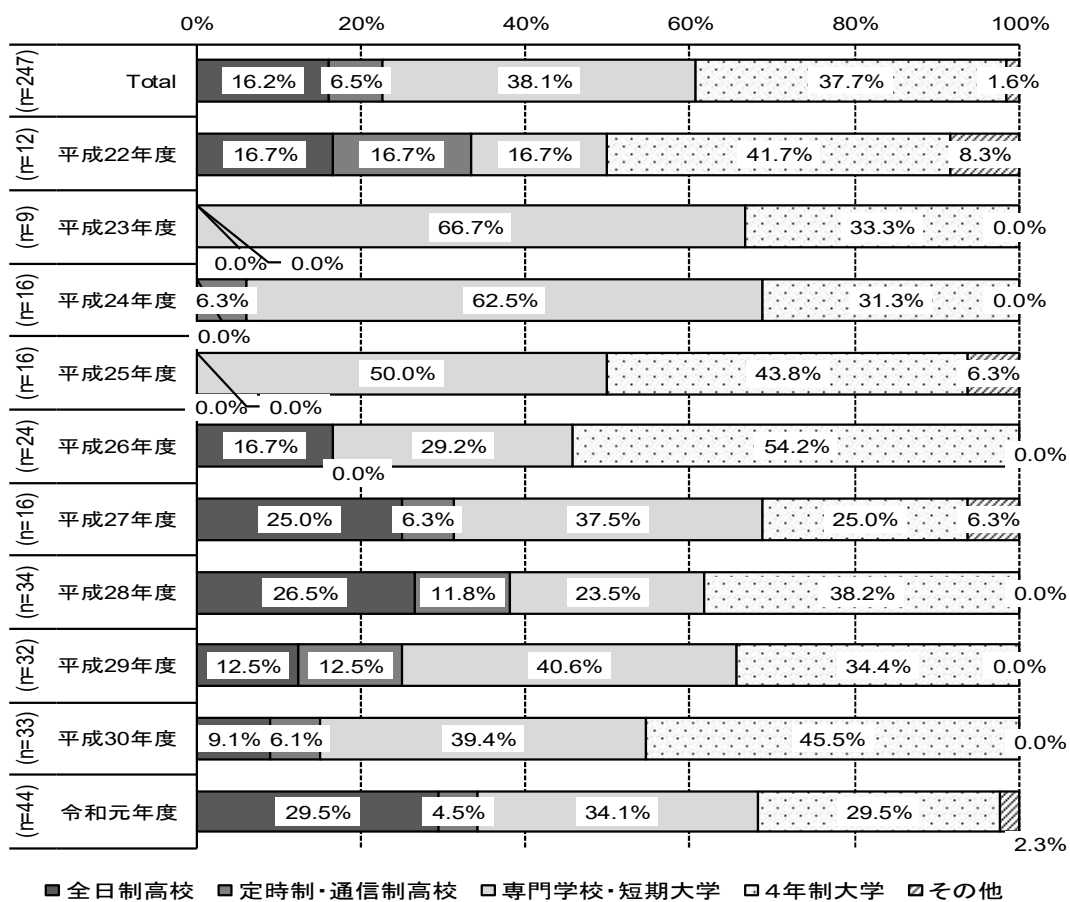


施設の種類の別に見ると、「児童養護施設」では「専門学校・短期大学」が37.8%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「4年制大学」が50.0%と最も割合が高くなっている。「里親」では「4年制大学」が53.3%と最も割合が高くなっている。

図表 27 退所直後に進学した学校の種類（施設等の種類別）



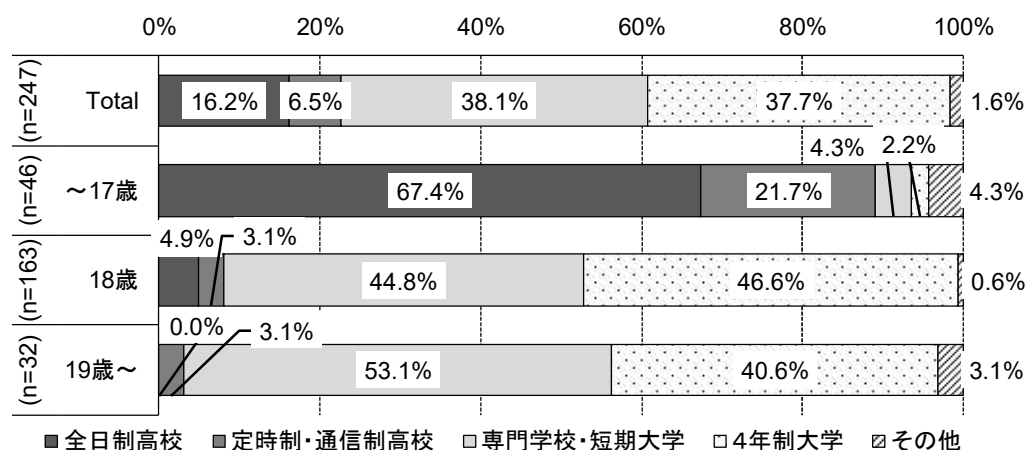
図表 28 退所直後に進学した学校の種類（退所年度別）





退所時点の年齢別にみると、「～17歳」では「全日制高校」が67.4%と最も割合が高くなっている。「18歳」では「4年制大学」が46.6%と最も割合が高くなっている。「19歳～」では「専門学校・短期大学」が53.1%と最も割合が高くなっている。

図表 29 退所直後に進学した学校の種類（退所時点の年齢別）

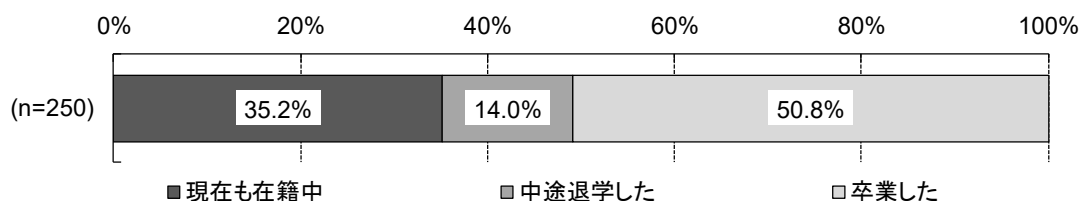


## 2) 退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況

### a) 全体の傾向

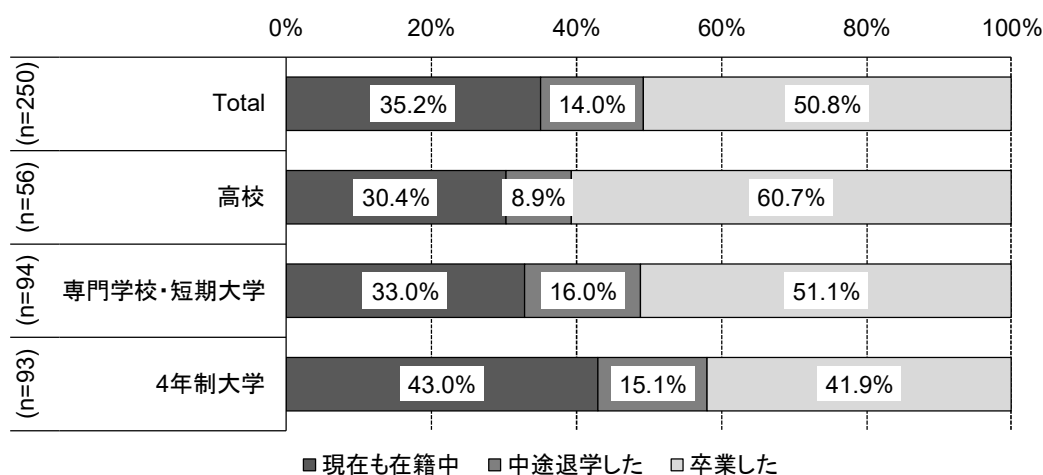
「卒業した」の割合が最も高く50.8%となっている。次いで、「現在も在籍中(35.2%)」、「中途退学した(14.0%)」となっている。

図表 30 退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況



進学した学校の種類別にみると、「高校」と「専門学校・短期大学」では、「卒業した」がそれぞれ 60.7%、51.1%と最も高くなっている。「4年制大学」では、「現在も在籍中」が 43.0%と最も高くなっている。

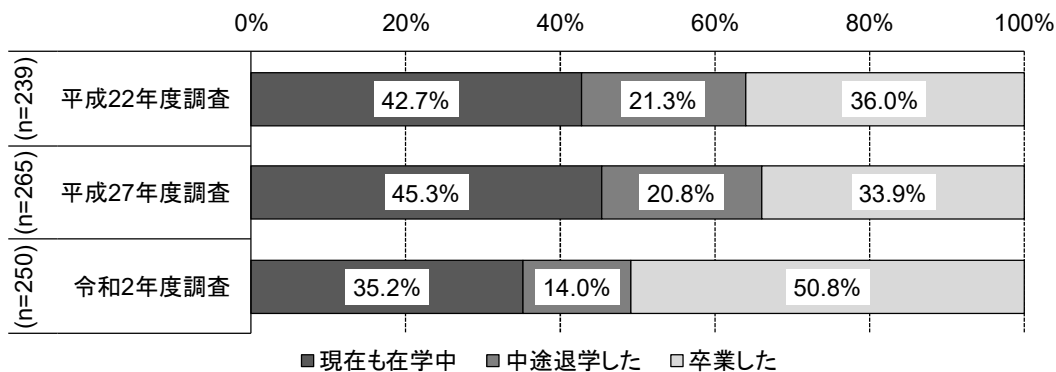
図表 31 退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況（進学した学校の種類別）



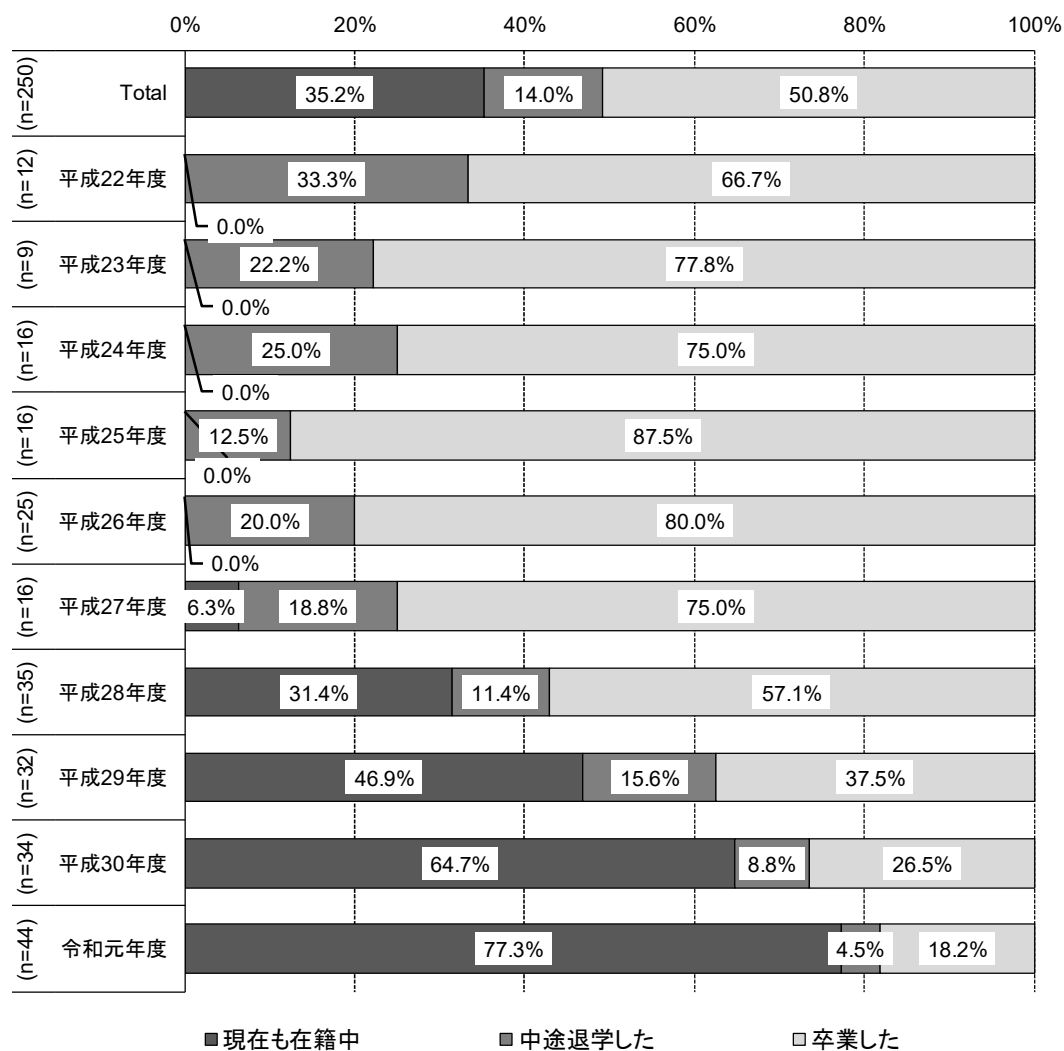
(注)「全日制高校」と「定時制・通信制高校」を統合し「高校」とした。

前回調査と比較すると、「中途退学した」の割合が、20.8%から 14.0%と 6.8 ポイント減少し、また、「卒業した」の割合が 33.9%から 50.8%と 16.9 ポイント増加している。

図表 32 退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況（前回調査との比較）



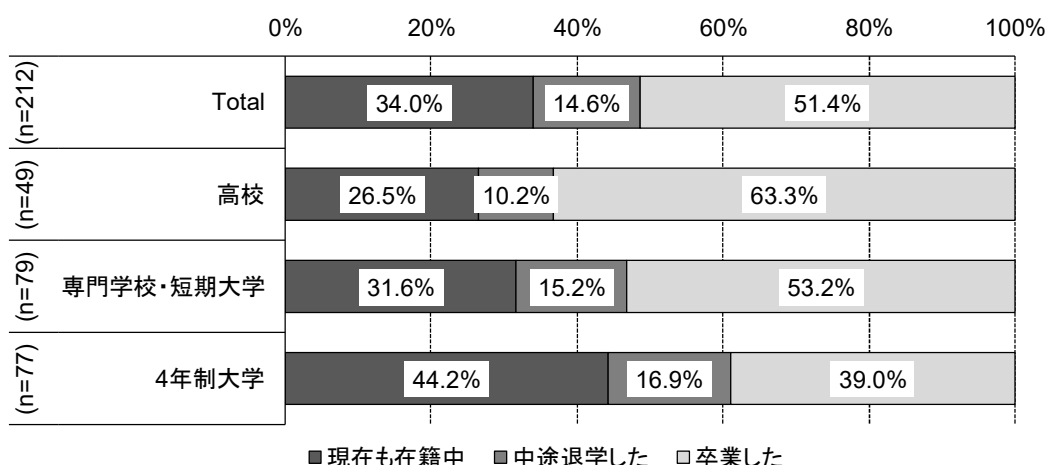
図表 33 退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況（退所年度別）



## b) 児童養護施設退所者の進路の傾向

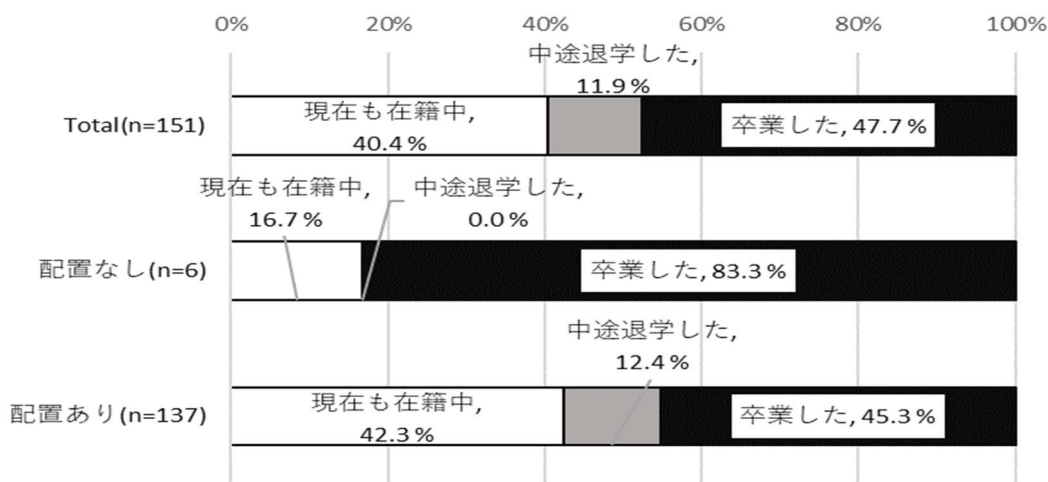
児童養護施設を退所した人について、進学した学校の種類別にみると、「高校」と「専門学校・短期大学」では「卒業した」がそれぞれ 63.3%、53.2%と最も高く、「4年制大学」では「現在も在籍中」が 44.2%と最も高くなっている。

図表 34 退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況（進学した学校の種類別）  
（児童養護施設のみ）



自立支援コーディネーターの配置状況別にみると、いずれも「卒業した」の割合が最も高く、「配置なし」では 83.3%、「配置あり」では 45.3%となっている。

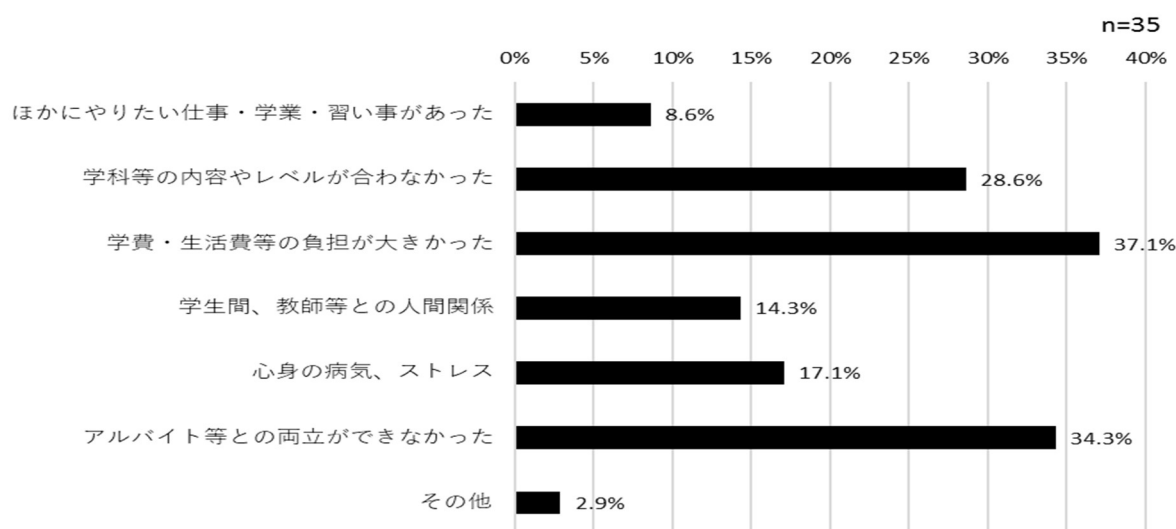
図表 35 退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況（自立支援コーディネーター配置状況別）（民間児童養護施設・平成 25 年度以降退所者のみ）



### 3) 中途退学の理由

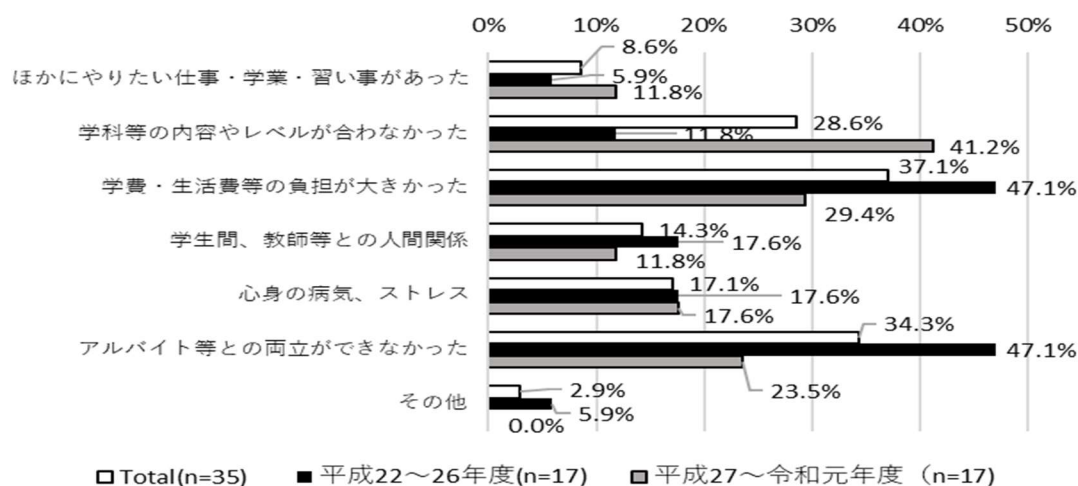
退所直後に進学した学校の卒業・在籍状況について「中途退学した」を回答した人に理由をたずねたところ、「学費・生活費等の負担が大きかった」の割合が最も高く 37.1%となっている。次いで、「アルバイト等との両立ができなかった (34.3%)」、「学科等の内容やレベルが合わなかった (28.6%)」となっている。

図表 36 中途退学した理由（複数回答・主な理由2つまで）



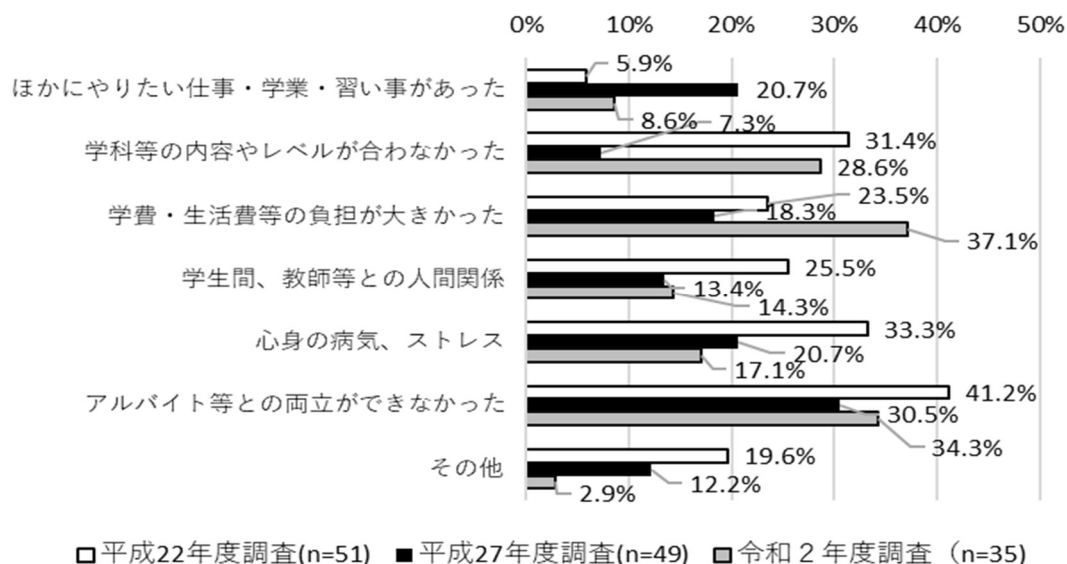
退所年度別にみると、「平成 22～平成 26 年度」では「学費・生活費等の負担が大きかった」、「アルバイト等との両立ができなかった」が 47.1%と最も割合が高くなっている。「平成 27～令和元年度」では「学科等の内容やレベルが合わなかった」が 41.2%と最も割合が高くなっている。

図表 37 中途退学した理由（複数回答・主な理由2つまで）（退所年度別）



前回調査と比較すると、「学費・生活費等の負担が大きかった」が 18.3%から 37.1%と 18.8ポイント増加し、「学科等の内容やレベルが合わなかった」が 7.3%から 28.6%と 21.3ポイントと増加した。

図表 38 中途退学した理由（複数回答・主な理由2つまで）（前回調査との比較）



(注) 前回調査までは、「学費等の負担が大きかった」としていた選択肢を、今回調査から「学費・生活費等の負担が大きかった」と変更した。

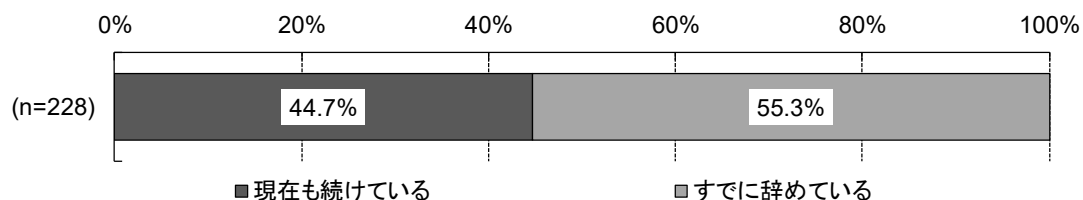
### ③ 退所直後の就労状況

以降の設問は、退所直後の主な進路について、「就職」もしくは「当時働いていた職場に引き続き就労」を回答した人にたずねた。

### 1) 退所後に就いた最初の仕事の状況

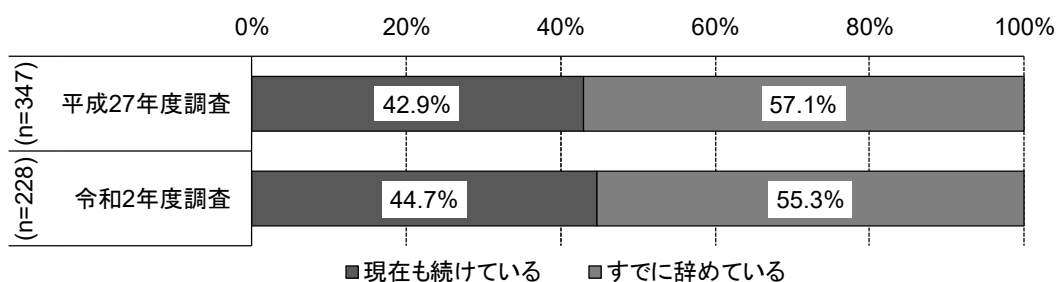
「すでに辞めている」が55.3%、「現在も続けている」が44.7%となっている。

**図表 39 最初の仕事の状況**



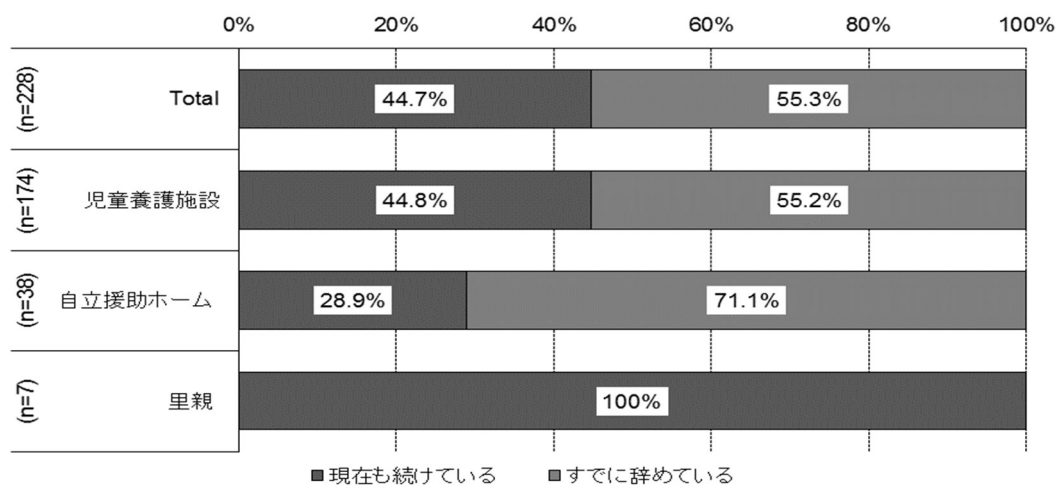
前回調査と比較すると、「現在も続けている」が42.9%から44.7%と1.8ポイント増加している。

**図表 40 最初の仕事の状況（前回調査との比較）**

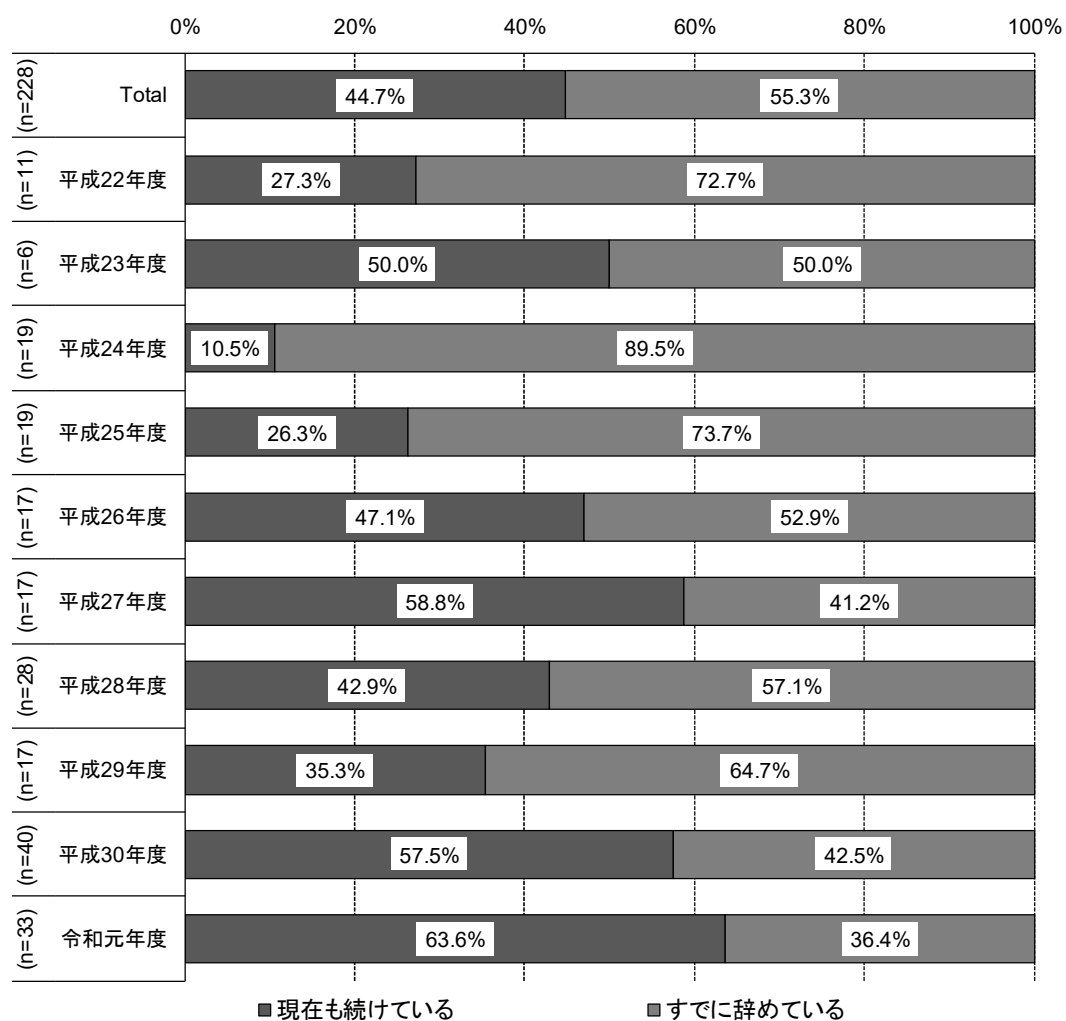


施設の種類の別に見ると、「児童養護施設」では「すでに辞めている」が55.2%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「すでに辞めている」が71.1%と最も割合が高くなっている。「里親」では「現在も続けている」が100%となっている。

**図表 41 最初の仕事の状況（施設等の種類別）**



図表 42 最初の仕事の状況（退所年度別）

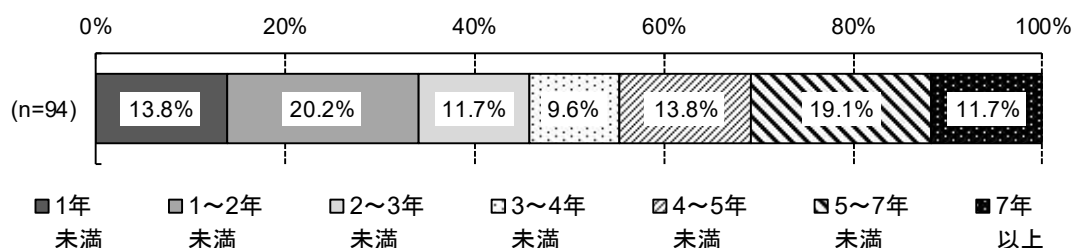




## 2) 継続期間（「現在も続けている」を回答した人）

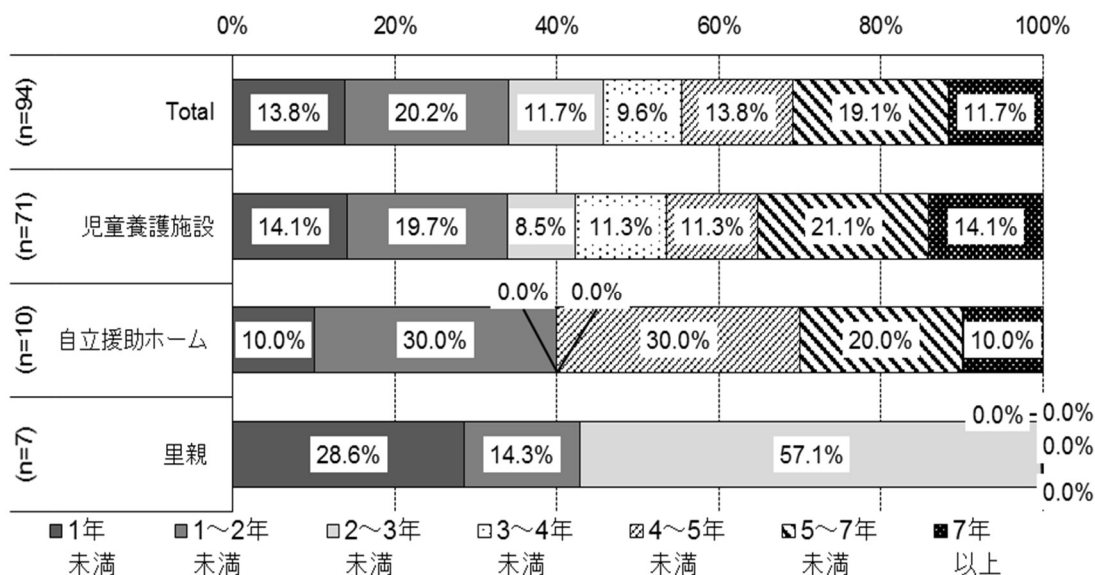
退所後に就いた最初の仕事について、「現在も続けている」を回答した人にたずねたところ、「1～2年未満」の割合が最も高く 20.2%となっている。次いで、「5～7年未満（19.1%）」、「1年未満（13.8%）」、「4～5年未満（13.8%）」となっている。

図表 43 継続期間（「現在も続けている」を回答した人）



施設の種類別にみると、「児童養護施設」では「5～7年未満」が 21.1%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「1～2年未満」、「4～5年未満」が 30.0%と最も割合が高くなっている。「里親」では「2～3年未満」が 57.1%と最も割合が高くなっている。

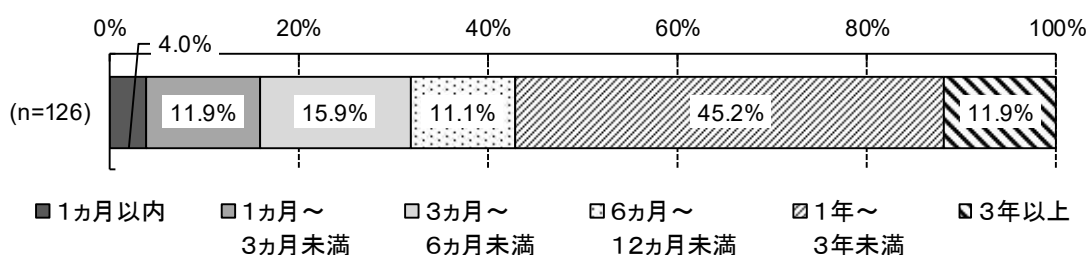
図表 44 継続期間（「現在も続けている」を回答した人）（施設等の種類別）



### 3) 継続期間（「すでに辞めている」を回答した人）

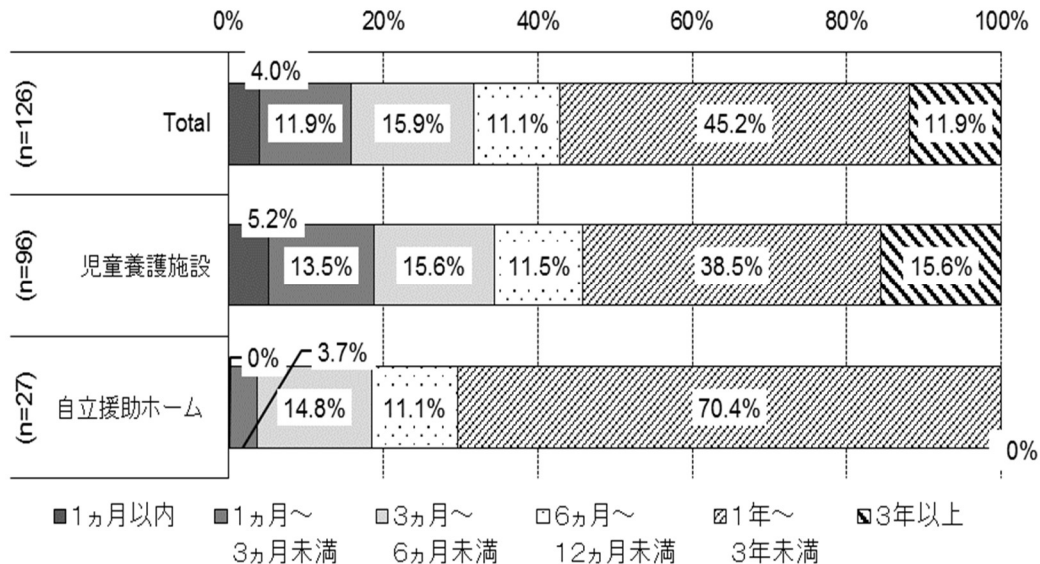
退所後に就いた最初の仕事について、「すでに辞めている」を回答した人にたずねたところ、「1年～3年未満」の割合が最も高く 45.2%となっている。次いで、「3ヵ月～6ヵ月未満（15.9%）」、「1ヵ月～3ヵ月未満（11.9%）」、「3年以上（11.9%）」となっている。

図表 45 継続期間（「すでに辞めている」を回答した人）



施設の種類別にみると、いずれも「1年～3年未満」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 38.5%、「自立援助ホーム」では 70.4%となっている。

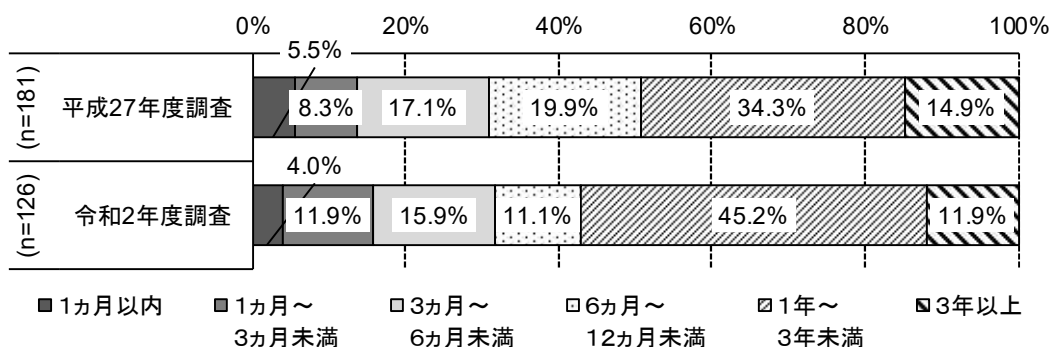
図表 46 継続期間（「すでに辞めている」を回答した人）（施設等の種類別）



(注)「里親」の回答はなかった (n=0)。

前回調査と比較すると、12か月未満の合計が、50.8%から42.9%と7.9ポイント減少している。

図表 47 継続期間（「すでに辞めている」を回答した人）（前回調査との比較）

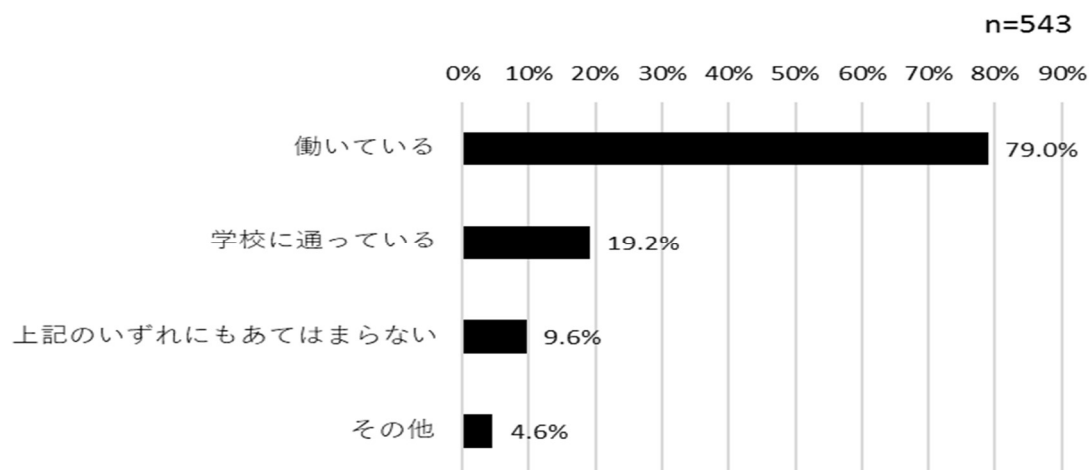


## （2）現在の就労・就学の状況

### ① 現在の就労・就学の状況

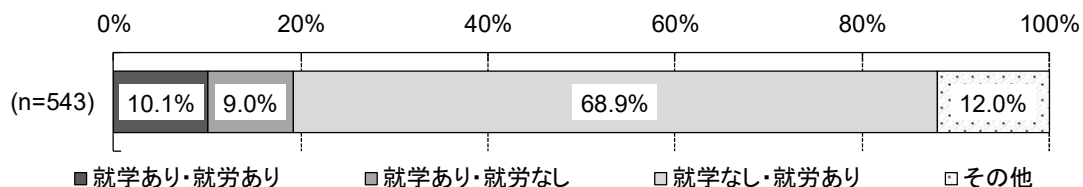
「働いている」の割合が最も高く79.0%となっている。次いで、「学校に通っている（19.2%）」、「上記のいずれにもあてはまらない（9.6%）」となっている。

図表 48 現在の就労・就学の状況（複数回答）



現在の就労・就学の状況を整理すると、「就学なし・就労あり」の割合が最も高く 68.9% となっている。次いで、「就学あり・就労あり (10.1%)」、「就学あり・就労なし (9.0%)」、「就学なし・就労あり (9.0%)」となっている。

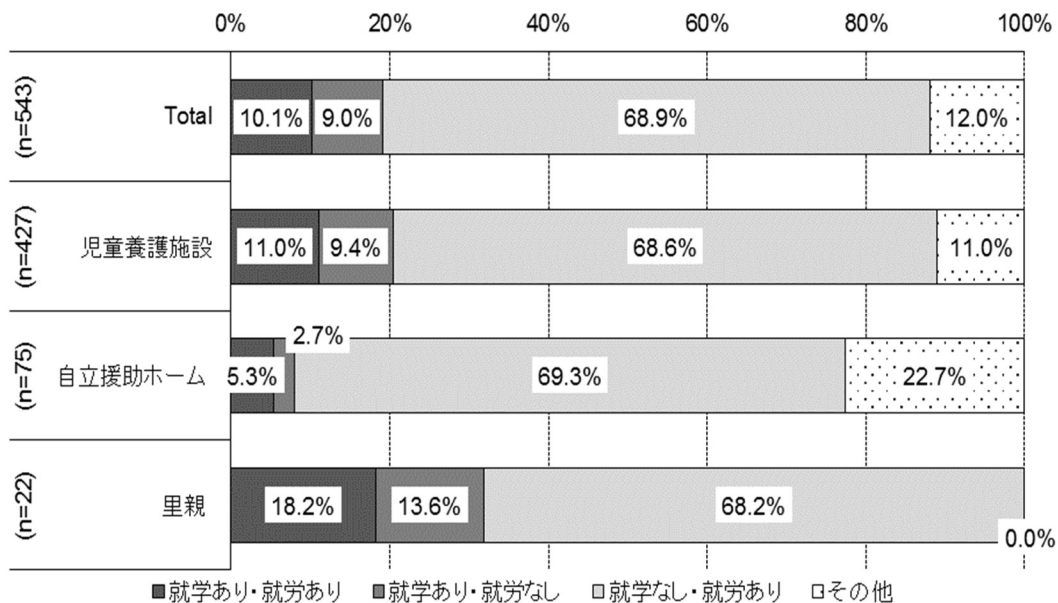
図表 49 現在の就労・就学の組み合わせ



(注) 「働いている」「学校に通っている」のいずれも選択しなかった人を「その他」とした。

施設の種類別にみると、いずれも「就学なし・就労あり」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 68.6%、「自立援助ホーム」では 69.3%、「里親」では 68.2%となっている。

図表 50 現在の就労・就学の組み合わせ（施設等の種類別）



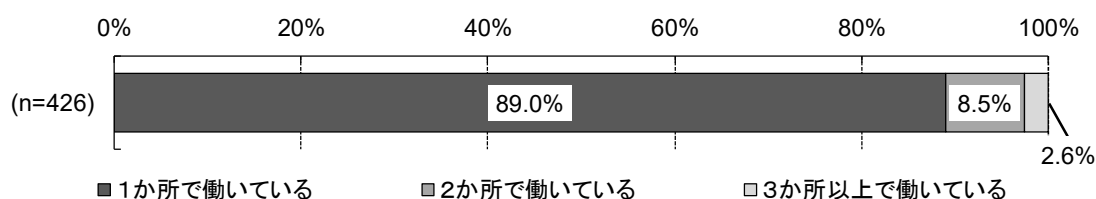
## ② 現在の就労状況

以降の設問は、現在の就労・就学の状況について「働いている」を回答した人にたずねた。

### 1) 現在の勤務先の数

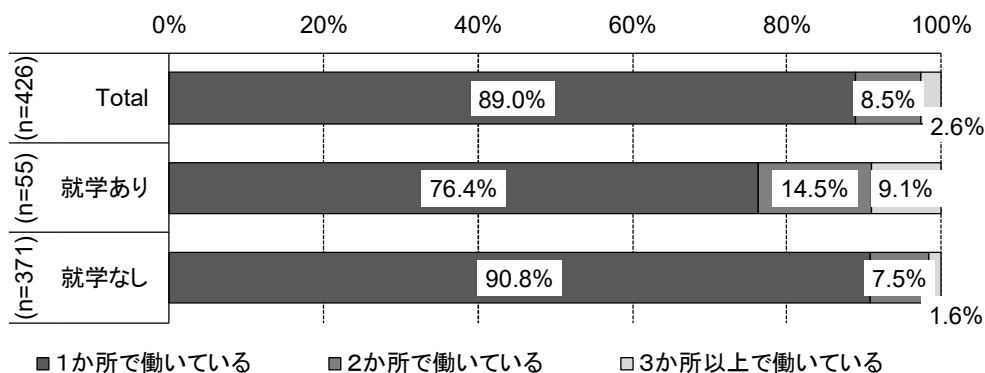
「1か所で働いている」の割合が最も高く89.0%となっている。次いで、「2か所で働いている(8.5%)」、「3か所以上で働いている(2.6%)」となっている。

図表 51 現在の勤務先の数



就学の有無別にみると、「就学あり」「就学なし」のいずれも、「1か所で働いている」が76.4%、90.8%とそれぞれ最も高くなっている。

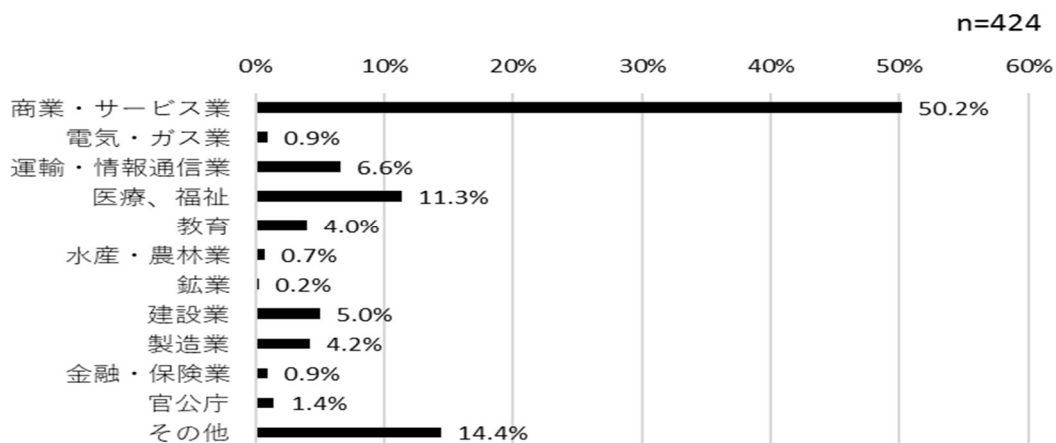
図表 52 現在の勤務先の数（就学の有無別）



## 2) 業種

「商業・サービス業」の割合が最も高く 50.2%となっている。次いで、「その他(14.4%)」、「医療、福祉(11.3%)」となっている。

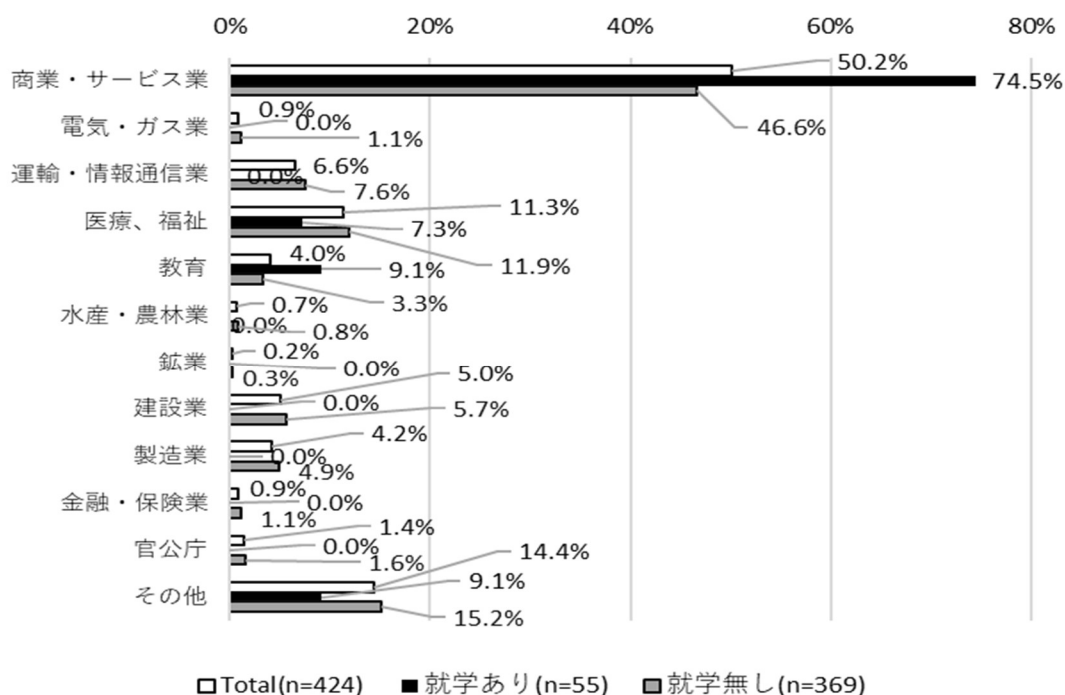
図表 53 業種（単数回答）



(注)「その他」として、「清掃業」、「事務」、「飲食店」、「引越屋」、「警備業」、「自衛官」、「不動産業」、「エンタメ業」、「クリーニング品管理」、「フリーライター」、「解体屋」、「就労継続支援 B 型作業所」、「保育園での調理業務」、「酪農業」、「観光業」、「ネットワーク構築」などが挙げられた。

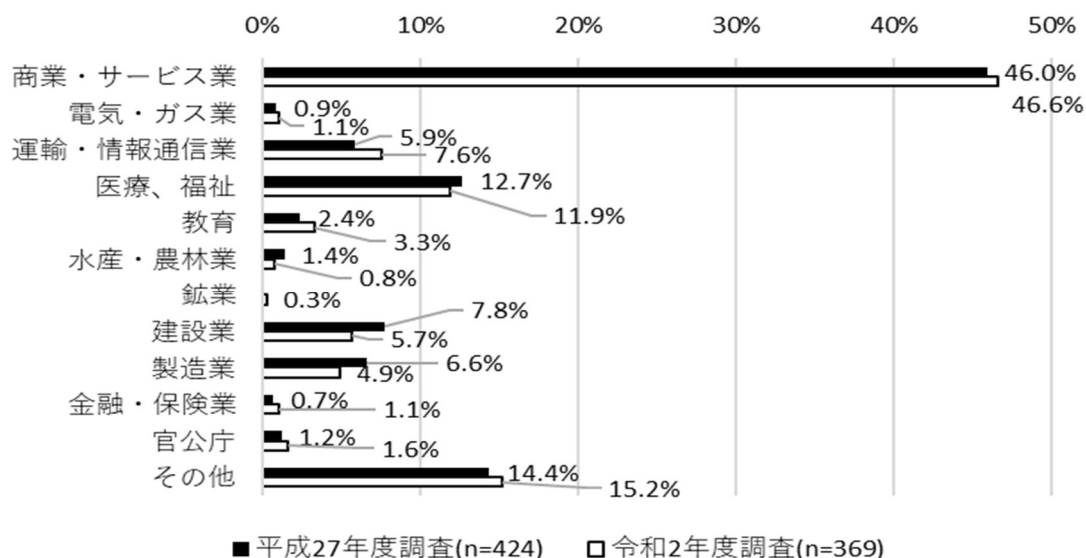
就学の有無別にみると、「就学あり」「就学なし」のいずれも「商業・サービス業」が最も高く、それぞれ 74.5%、46.6%となっている。

図表 54 業種（単数回答）（就学の有無別）



前回調査と比較すると、いずれの選択肢にも大幅な増減はない。

図表 55 業種（単数回答）（前回調査との比較）（現在学校に通っている人を除く）

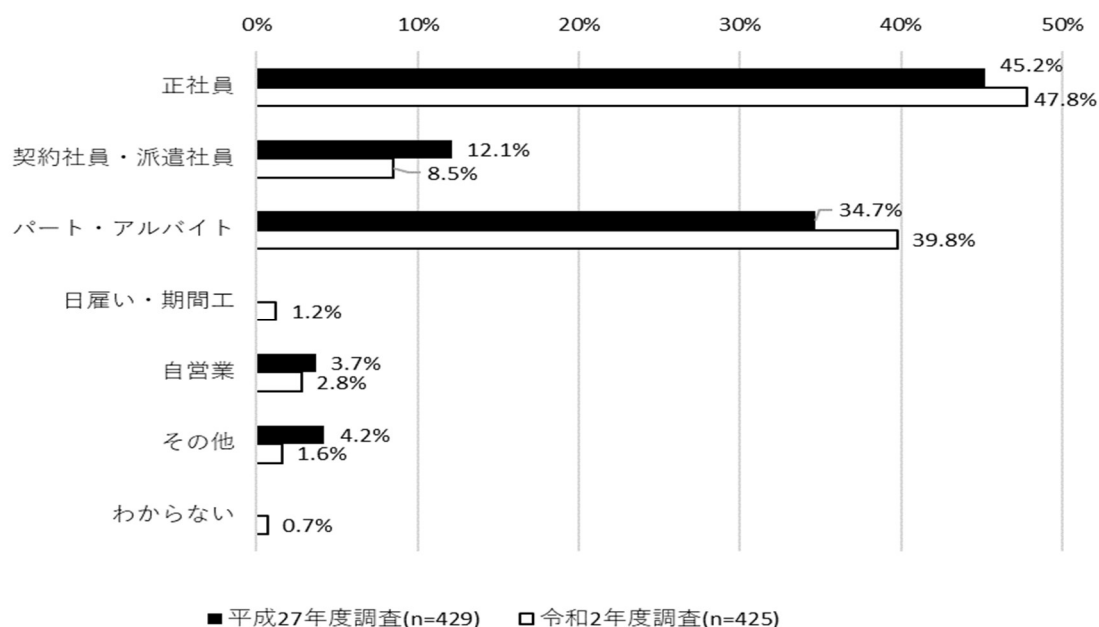


(注) 今回調査では、「鉱業」を追加してたずねた。

### 3) 雇用形態

「正社員」の割合が最も高く（47.8%）、前回調査より 2.6 ポイント増加している。次いで、「パート・アルバイト（39.8%）」、「契約社員・派遣社員（8.5%）」となっている。

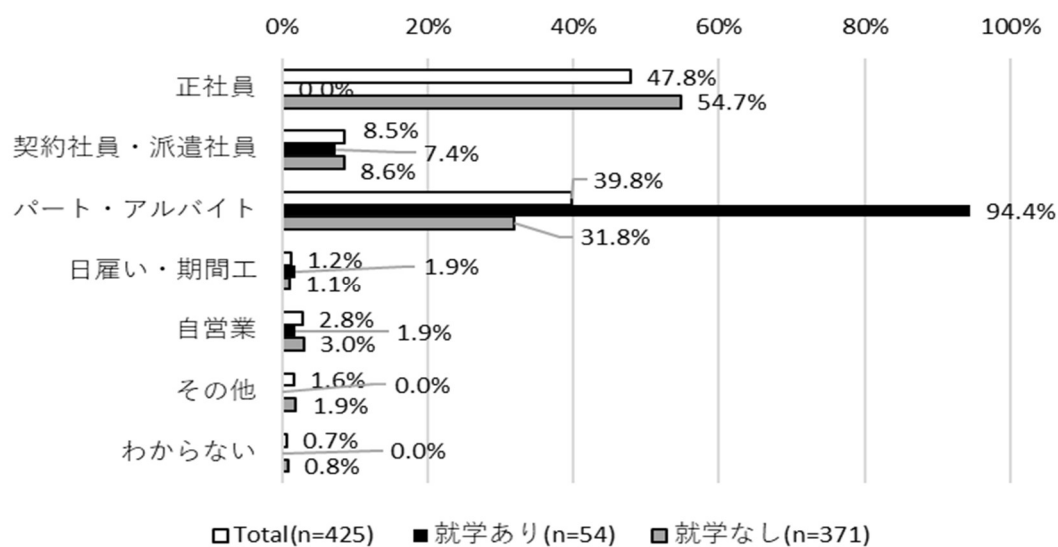
図表 56 雇用形態（複数回答）（前回調査との比較）



(注) 今回調査では、「日雇い・期間工」「わからない」を追加してたずねた。

就学の有無別にみると、「就学あり」では「パート・アルバイト（94.4%）」、「就学なし」では「正社員（54.7%）」が最も高くなっている

図表 57 雇用形態（複数回答）（就学の有無別）

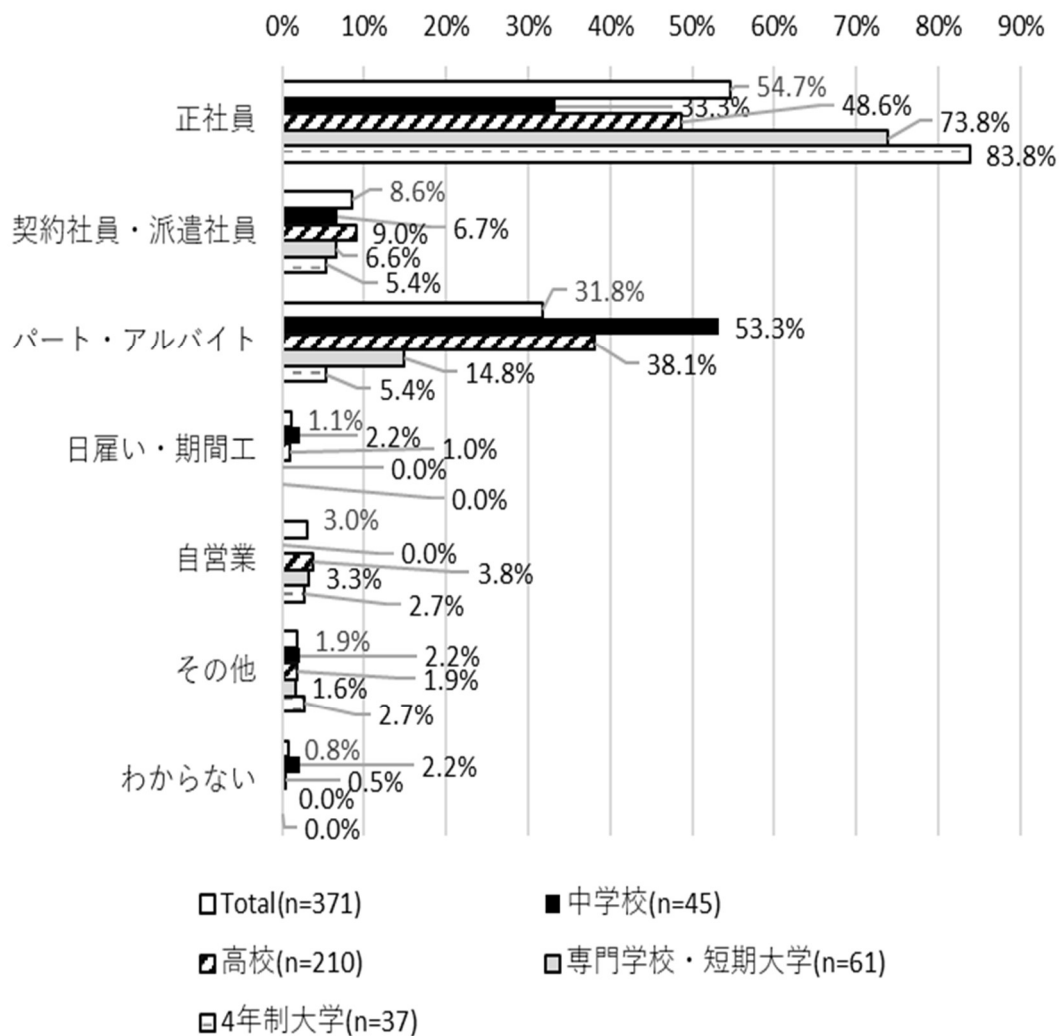


(注) 前回調査（平成 27 年度）では、「現在の仕事の雇用形態（現在働いていない人及び在学中の人を除く）（単数回答）」をたずねたところ、「正規雇用（正社員）」が 45.2%、次いで「パート・アルバイト（34.7%）」、「派遣・契約社員（12.1%）」、「その他（4.2%）」、「自営業（3.7%）」であった（n=429）。



現在学校に通っている人を除き、最終学歴別にみると、「中学校」では「パート・アルバイト」が53.3%と最も割合が高くなっている。「高校」「専門学校・短期大学」「4年制大学」では「正社員」が48.6%、73.8%、83.8%とそれぞれ最も割合が高くなっている。

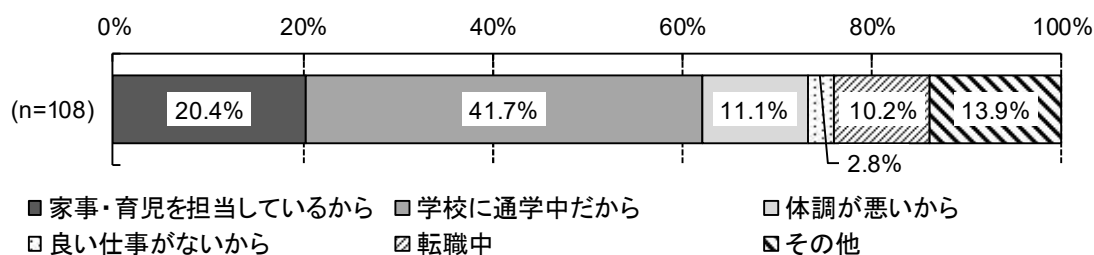
図表 58 雇用形態（複数回答）（最終学歴別）（学校に通っている人を除く）



### ③ 働いていない理由

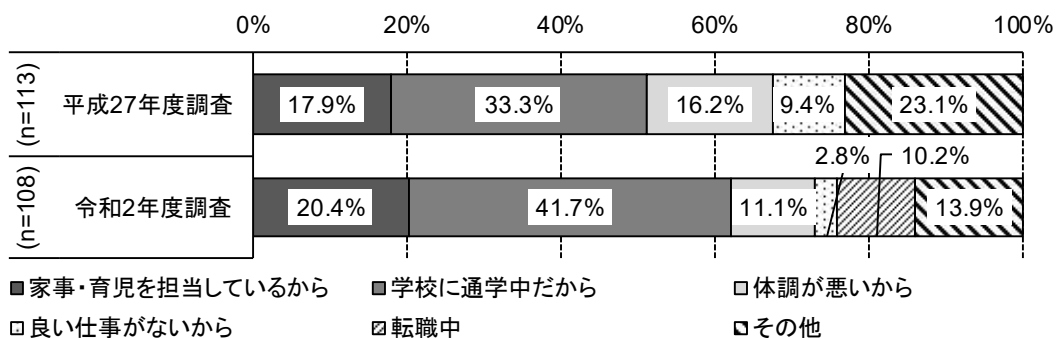
現在の就労・就学の状況について、「働いている」を回答した人以外に働いていない理由をたずねたところ、「学校に通学中だから」の割合が最も高く 41.7%となっている。次いで、「家事・育児を担当しているから (20.4%)」、「その他 (13.9%)」となっている。

図表 59 働いていない理由（現在の就労・就学の状況で「働いている」を回答した人以外）



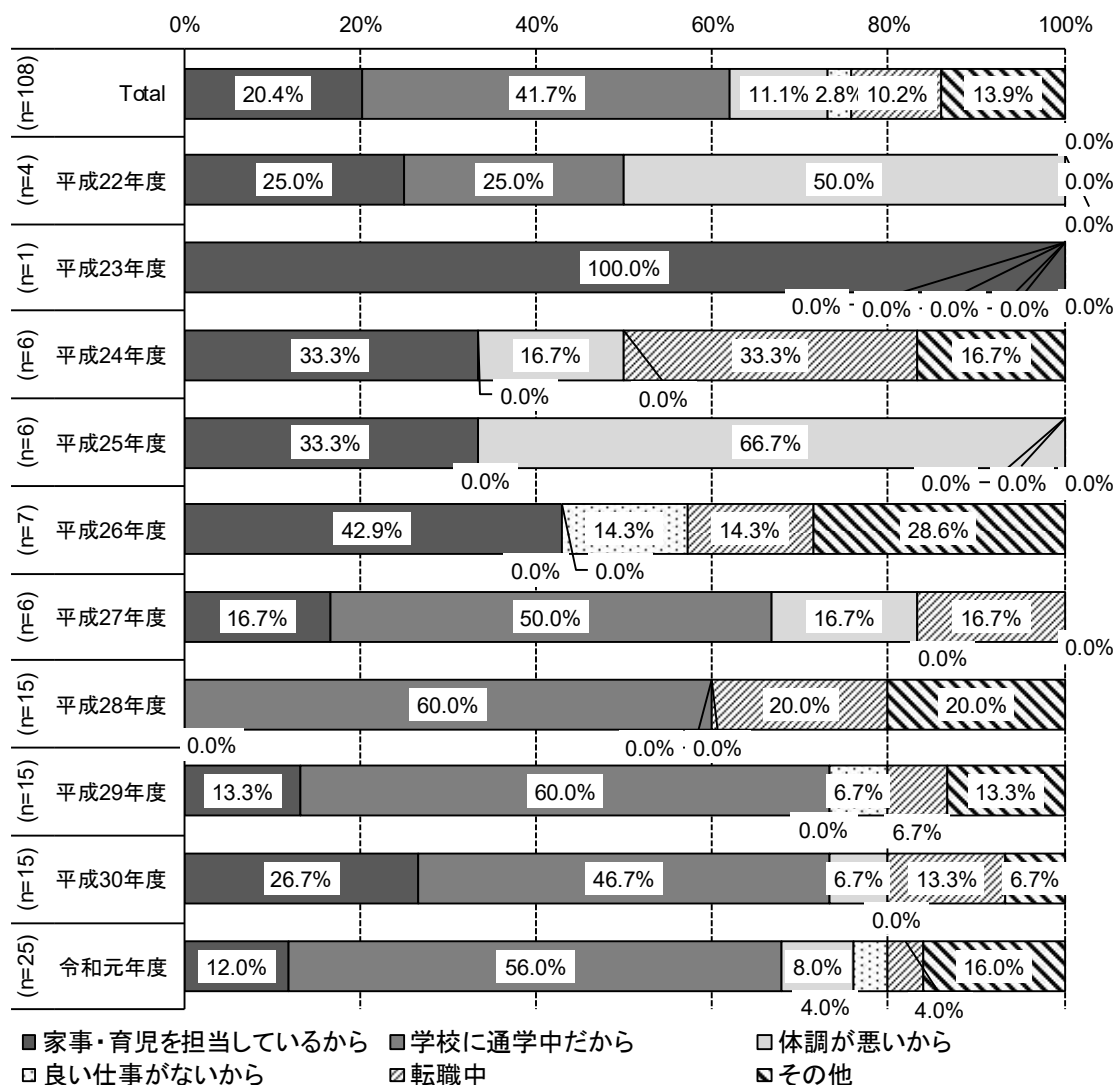
前回調査と比較すると、「学校に通学中だから」が 33.3%から 41.7%と 8.4 ポイント増加した。

図表 60 働いていない理由（現在の就労・就学の状況で「働いている」を回答した人以外）（前回調査との比較）



(注) 今回調査では、「転職中」の選択肢を追加した。ずねた。

図表 61 働いていない理由（現在の就労・就学の状況で「働いている」を回答した人以外）（退所年度別）

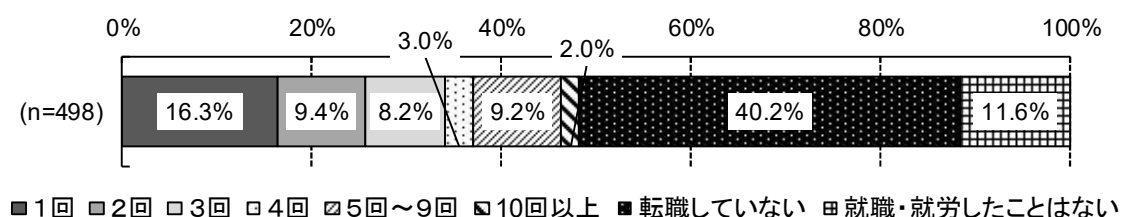


#### ④ 転職の状況

##### 1) これまでの転職回数

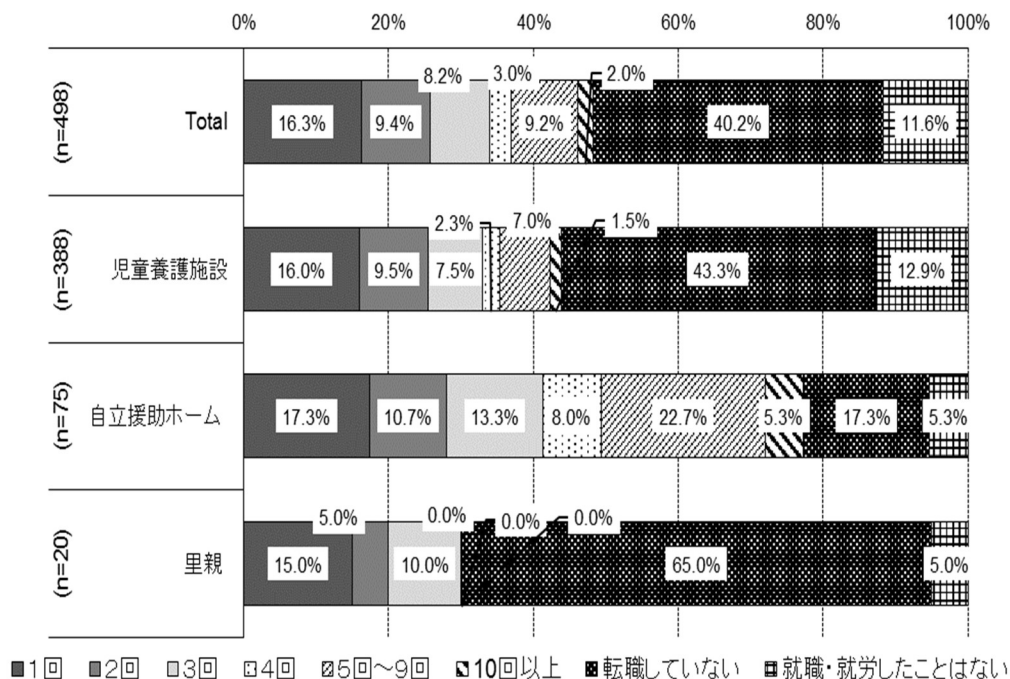
「転職していない」の割合が最も高く 40.2%となっている。次いで、「1回 (16.3%)」、「就職・就労したことはない (11.6%)」となっている。

図表 62 転職回数・経験の状況



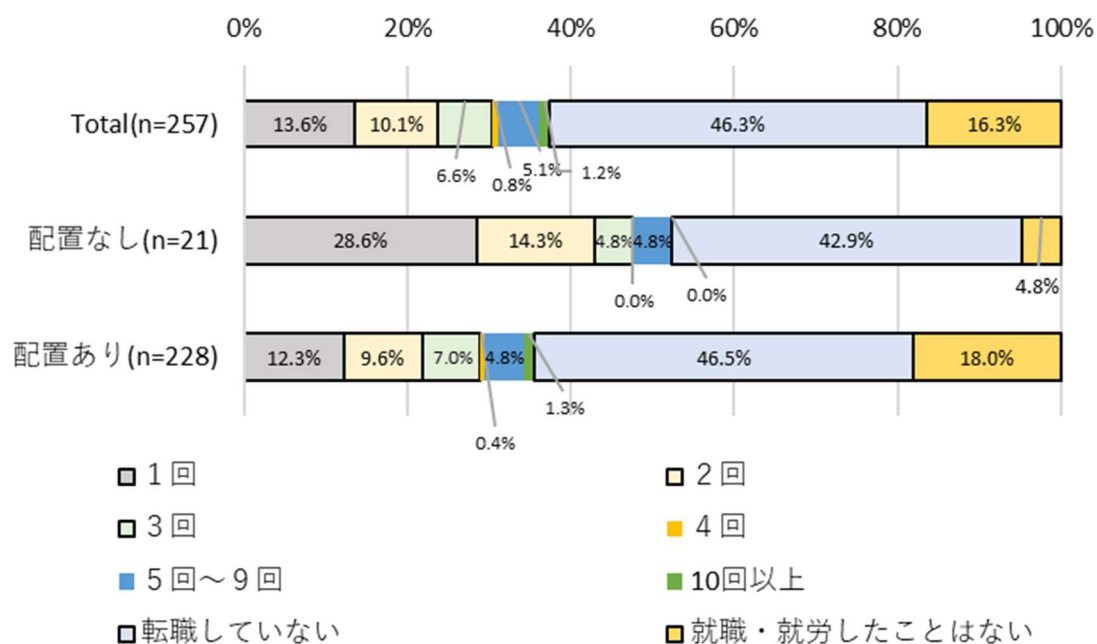
施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「転職していない」が 43.3%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「5回～9回」が 22.7%と最も割合が高くなっている。「里親」では「転職していない」が 65.0%と最も割合が高くなっている。

図表 63 転職回数・経験の状況（施設等の種別別）



自立支援コーディネーターの配置状況別にみると、いずれも「転職していない」の割合が最も高く、「配置なし」では42.9%、「配置あり」では46.5%となっている。

**図表 64 転職回数・経験の状況（自立支援コーディネーターの配置状況別）  
（民間児童養護施設・平成25年度以降退所者のみ）**



ジョブ・トレーナーの配置状況別にみると、いずれも「5回～9回」の割合が最も高く、「配置なし」では33.3%、「配置あり」では22.6%となっている。

**図表 65 転職回数・経験の状況（ジョブ・トレーナー配置状況別）  
（自立援助ホームのみ）**

